

在宅介護実態調査集計結果

第8期介護保険事業計画に向けた基礎調査

米子市長寿社会課

令和元年 11 月

目 次

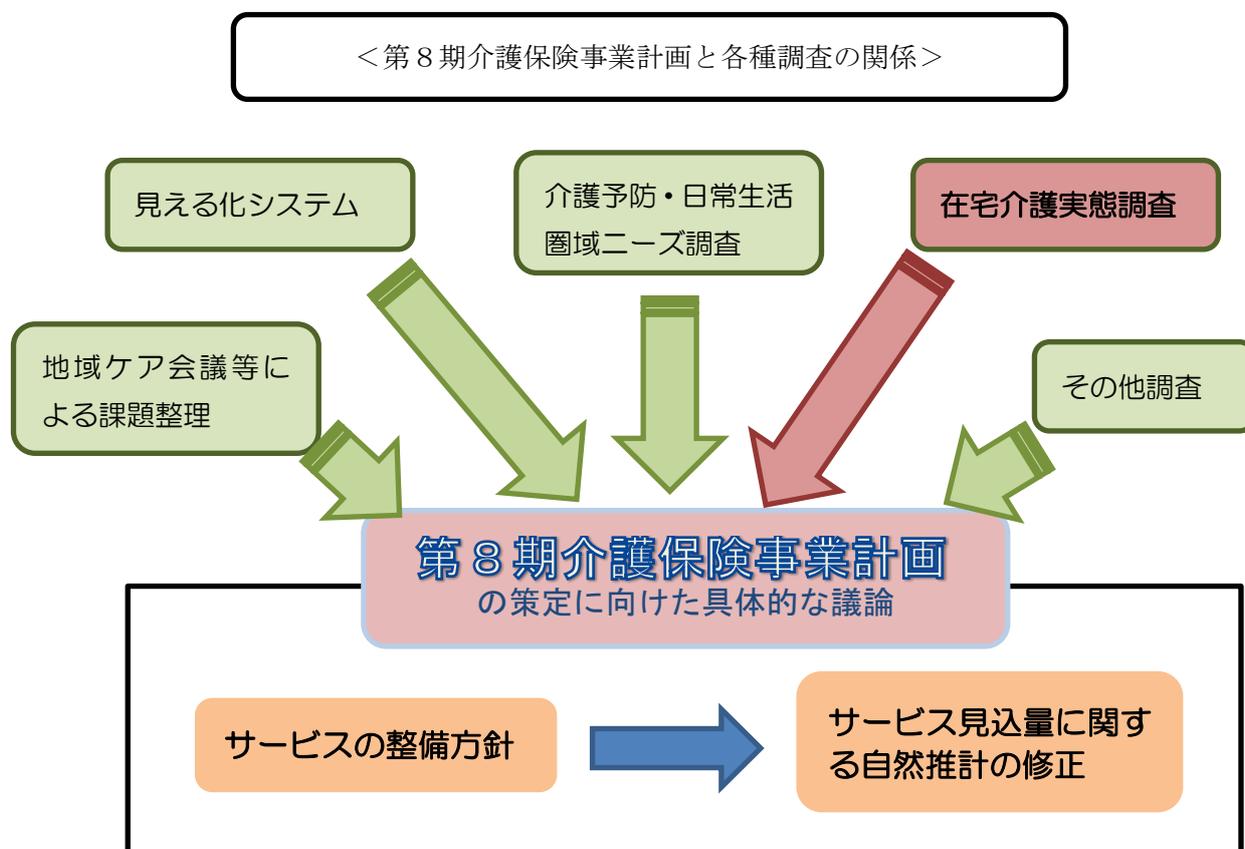
1 調査概要	2
(1) アンケート調査の目的	2
(2) 調査期間	3
(3) 調査の対象者	3
(4) 調査方法	3
(5) 集計方法	4
(6) 回答率	4
2 調査結果（基礎情報：要介護度等）	5
(1) 回答者の基本情報	5
3 調査結果（単純集計：A票）	8
(1) 世帯類型	8
(2) 家族等による介護の頻度	8
(3) 主な介護者の本人との関係	9
(4) 主な介護者の年齢	9
(5) 主な介護者が行っている介護	10
(6) 介護のための離職の有無	10
(7) 主な介護者が行っている介護	10
(8) 施設等検討の状況	11
4 調査結果（単純集計：B票）	12
(1) 主な介護者の勤務形態	12
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	12
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	12
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	13
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	14
5 調査結果（クロス集計）在宅限界点の向上のためのサービス提供体制	15
(1) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	15
(2) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	17
(3) 「サービス利用」と「施設等検討の状況」の関係	18
6 調査結果（クロス集計）仕事と介護の両立に向けたサービス提供体制	30
(1) 基礎集計	30
(2) 介護サービスと介護者の就労継続見込み	31
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」 の関係	34
【資料】 在宅介護実態調査 調査票様式	36

1 調査概要

(1) アンケート調査の目的

「在宅介護実態調査」は、令和3年度から3ヶ年の計画となる第8期介護保険事業計画の策定において、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向け、「サービス利用」の実態と「アウトカム」の関係性を調査分析によって明確にしたうえで、今後のサービス整備の方向性を検討することを目的として、主に在宅で要支援・要介護認定を受けている方を対象として調査を実施したものです。

地域目標を実現するための方向性を示すためには、現状をもとに、これまでの人口構造の変化等により、単純に直近のサービスの利用量等を伸ばしていく、いわゆる自然体推計に加え、これを修正するための議論とそのための材料が必要となります。「在宅介護実態調査」はこうした新しい計画立案プロセスを目指すための基礎調査と位置付けられます。



(2) 調査期間

令和元年7月～8月

(3) 調査の対象者

本調査の対象は、在宅で生活している要支援・要介護者のうち「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をし、対象期間中に認定調査を受けた人です。

したがって、医療機関に入院している人、特別養護老人ホーム・老人保健施設・介護療養型医療施設・特定施設・グループホーム・地域密着型特定施設・地域密着型特別養護老人ホームに入所又は入居している人は、調査の対象とはなっていません（なお、特定施設入居者生活介護又は地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅などの入居者は在宅として、本調査の対象としている）。

また、調査対象者数について、厚生労働省の試行調査において、人口1万人以上の有効サンプル数を600サンプルと示していることから調査数を600サンプルの収集を目標として実施しました。

(4) 調査方法

① 調査対象者の抽出

平成31年1月1日～令和元年6月30日の6ヶ月の期間に要介護認定結果を受けた被保険者3,669名（認定非該当者を含む）のうち、以下の対象者を除いた1,481名の要支援・要介護認定者を調査対象者としました。

調査対象者	1,481名
--------------	---------------

※住民票は自宅のまま、施設入所、入院等をされている方も含まれます。

※調査の対象者とししない方

○新規の申請者・・・介護保険サービスの利用実績がないため。

○市外転出者・死亡者等、本市における介護保険の資格を喪失した方

○在宅で生活していない方

（医療機関に入院している方、特別養護老人ホーム等の施設に入所されている方）

※有料老人ホーム、サ高住、ケアハウス等で特定施設入居者生活介護の指定を受けていない施設は在宅とみなします。

② アンケート調査項目の選択

「在宅介護実態調査」の調査項目については、厚生労働省から、「基本調査項目（9項目）」「オプション調査項目（10項目）」が設定されており、基本調査項目9項目に合わせ、オプション調査項目4項目を調査項目とした。これは、本市が必要性を判断した調査項目を必要最小限とし、できる限り調査項目を減らし、高齢者が回答し易くすることに配慮したためです。

（資料：「在宅介護実態調査 調査票」参照）

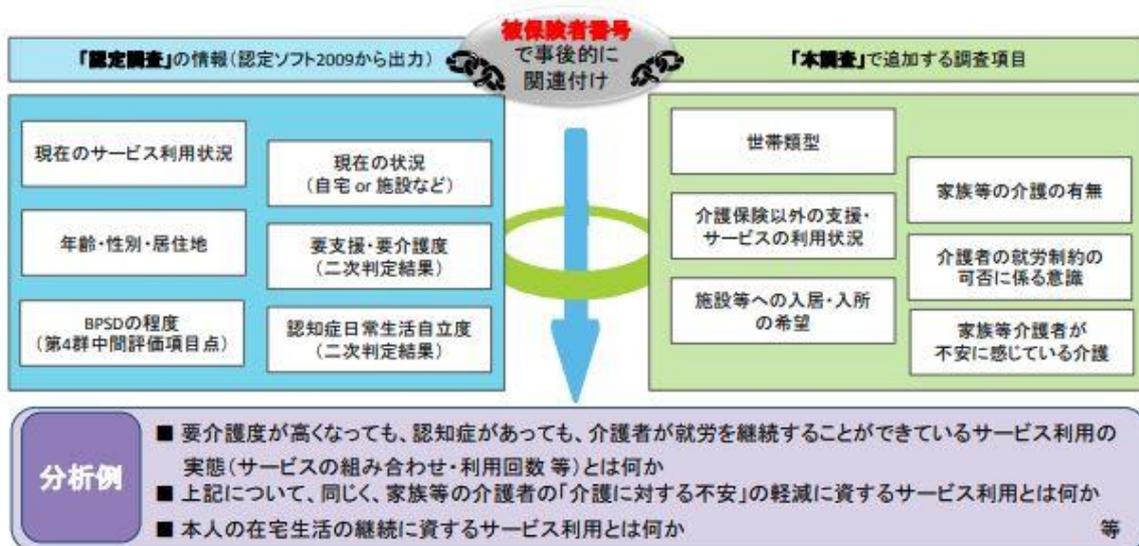
③ 郵送調査

令和元年8月1日（木曜日）付けで住所地へ郵送によるアンケート調査の依頼を行いました。（回答期限 令和元年8月30日）

前回、平成28年の実施時には、認定調査時の聞き取り調査を行っていましたが、調査票の収集に約7ヶ月間かかったこと。認定調査員への負担が大きいこと。家族（介護者）が不在の場合が多く、介護者への調査が不十分であったことから今回は郵送による調査を実施しました。

（5）集計方法

調査票の調査項目による単純集計に合わせ、要介護認定データを活用したクロス集計により被保険者番号によって、「認定データ」と「調査結果」を関連付けた集計を行います。



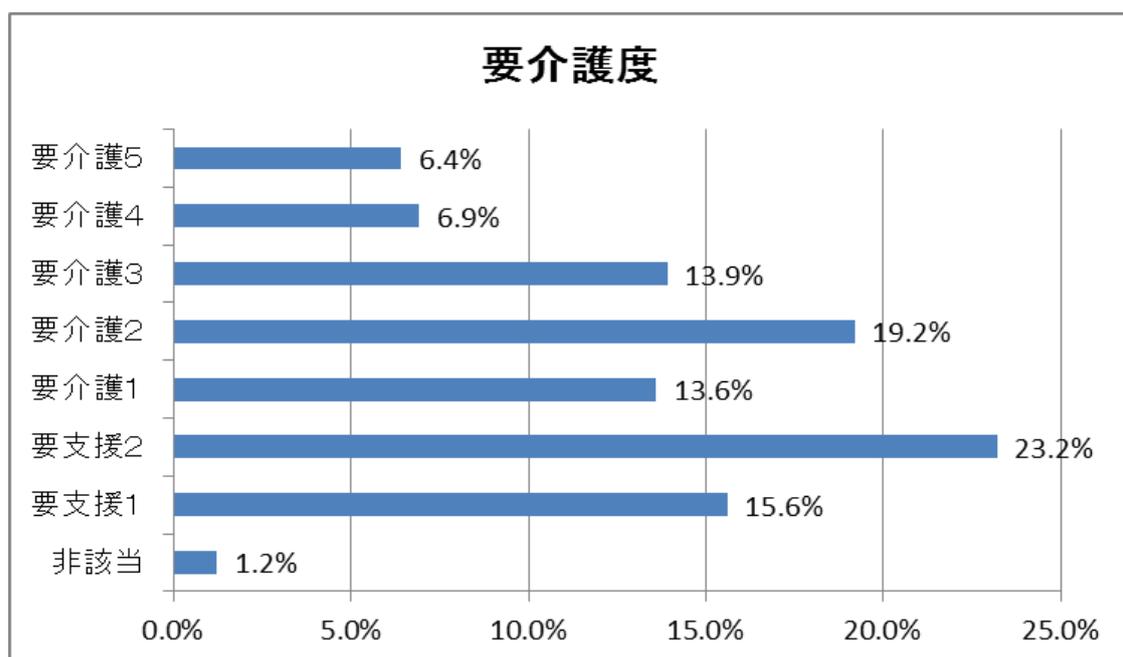
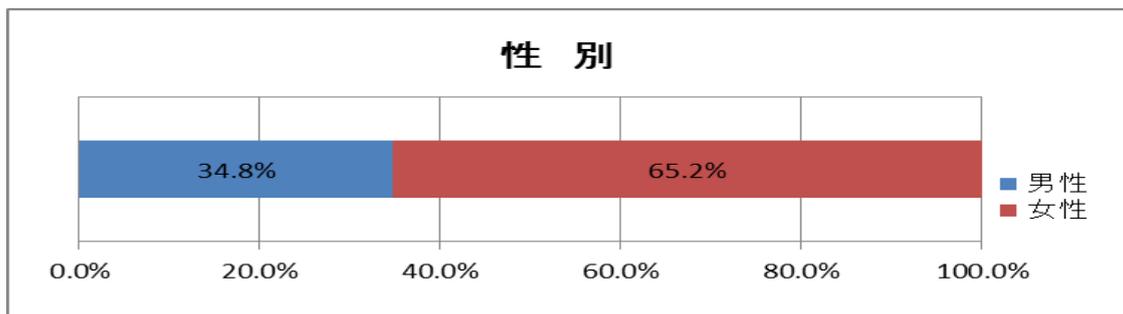
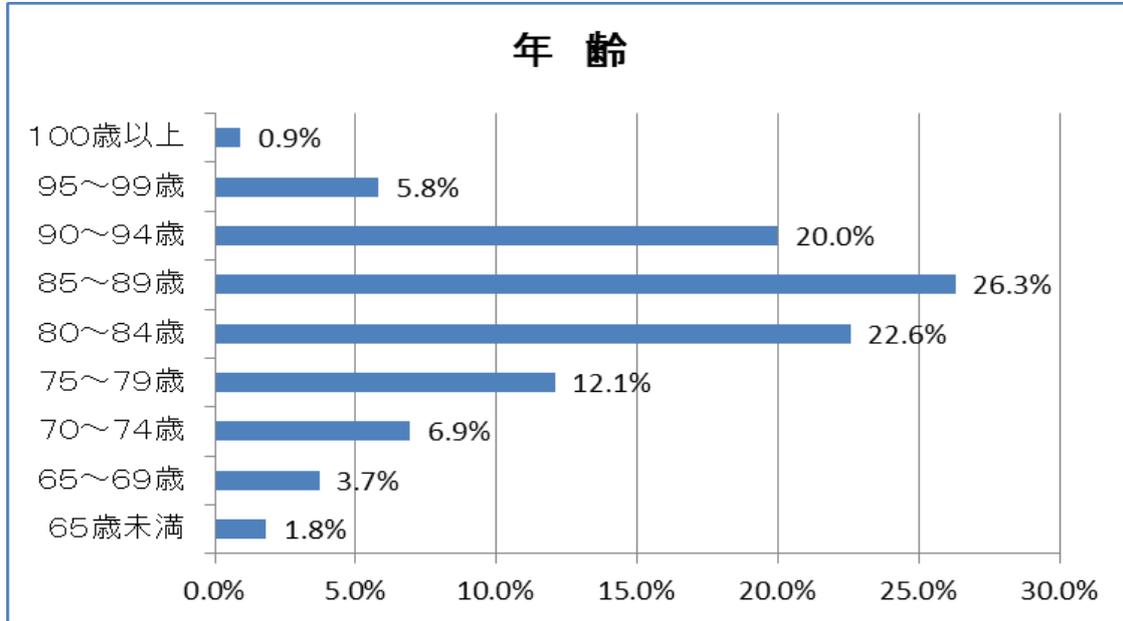
図：厚生労働省資料抜粋

（6）回答率

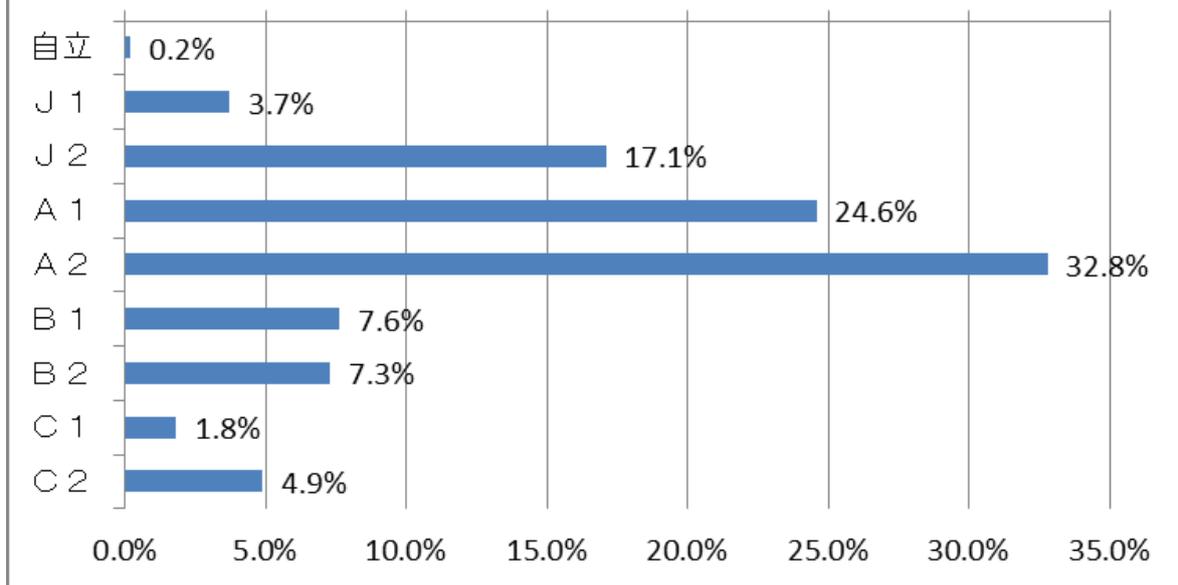
回答票 655名 / 調査票依頼数 1,481名 = 44.2%

2 調査結果（基礎情報：要介護度等）

（1）回答者の基本情報



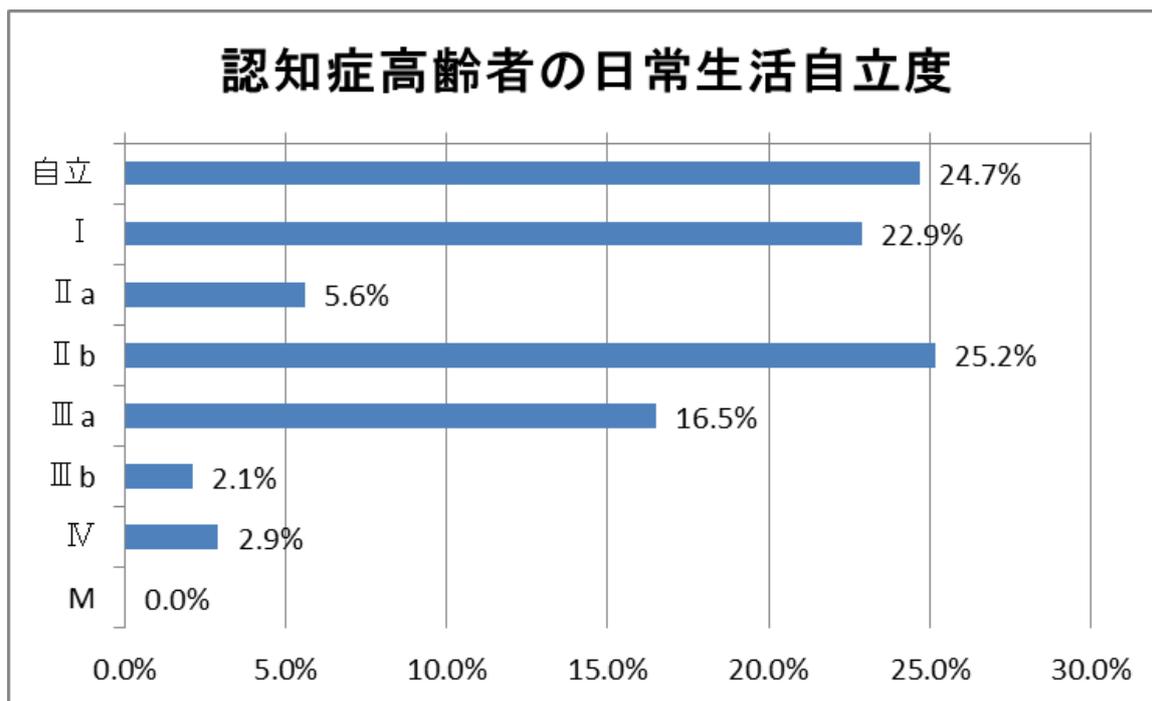
障がい高齢者の日常生活自立度



【障がい高齢者の日常生活自立度判定基準】

生活自立	ランクJ	何らかの障がい等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 1. 交通機関を利用して外出する。 2. 隣近所へなら外出する。
準寝たきり	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり、起きたりの生活をしている。
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
	ランクC	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。 1. 自力で寝返りをうつ。 2. 自力では寝返りもうてない。

認知症高齢者の日常生活自立度



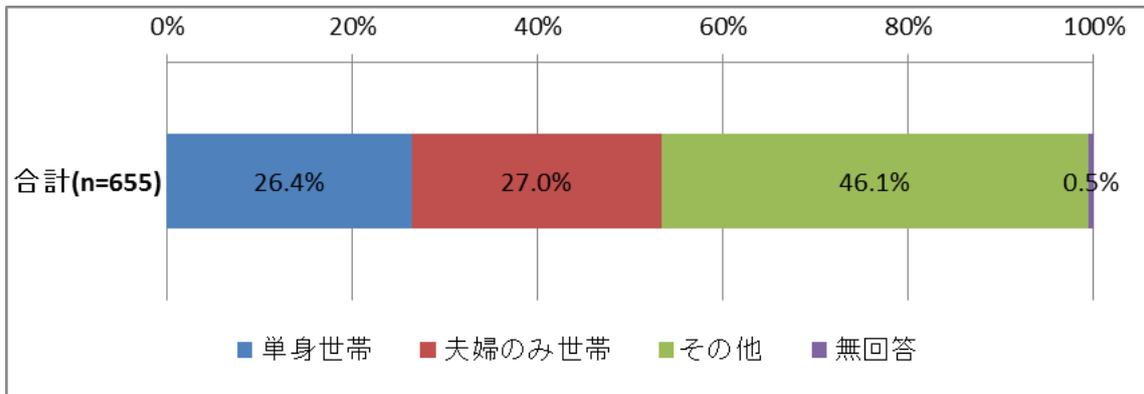
【認知症高齢者の日常生活自立度判定基準】

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態がみられる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIII aに同じ
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

3 調査結果（単純集計：A票）

（1）世帯類型

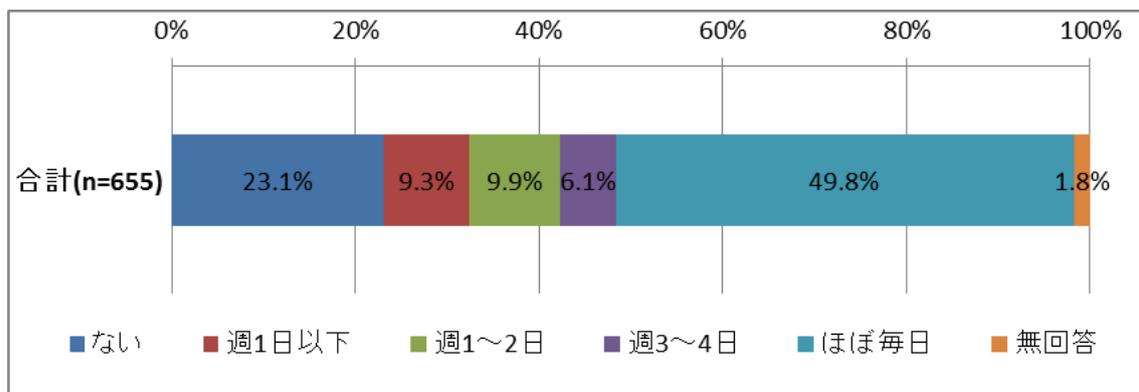
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



前回調査（平成29年度実施）と単純に比較はできませんが、単身世帯 26.4%（前回 21.2%）、夫婦のみの世帯 27.0%（前回 18.1%）と高齢者のみの世帯の割合が増加しています。

（2）家族等による介護の頻度

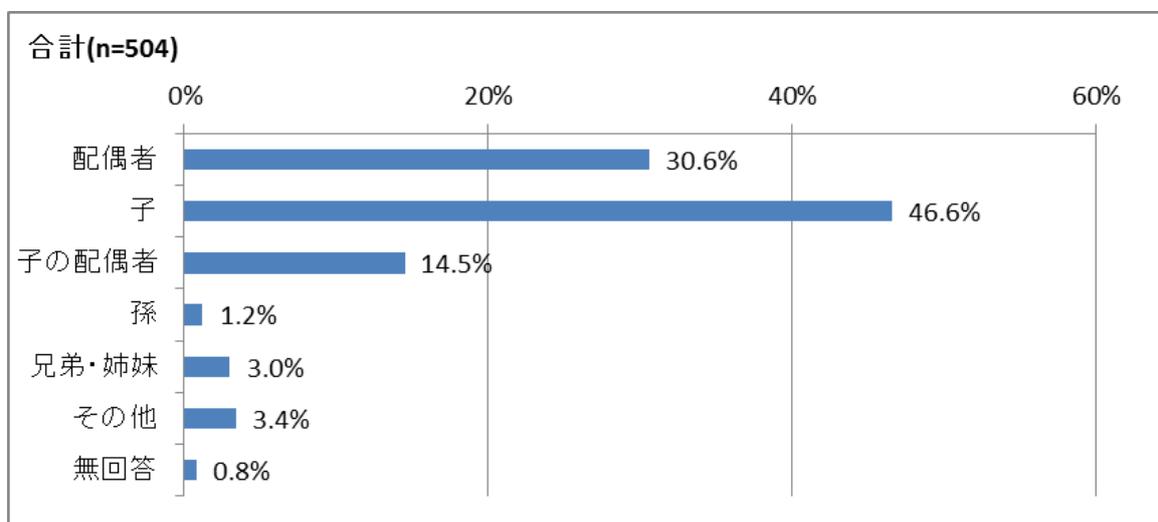
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



家族や親族（別居している家族等を含む）による介護の頻度についての回答です。単身世帯の増加（図表 1-1 参照）に伴い、家族等による介護がない方の割合が 23.1%です。（前回調査 12.5%）また、約半数の 49.8%の方がほぼ毎日、家族等による介護を受けています。

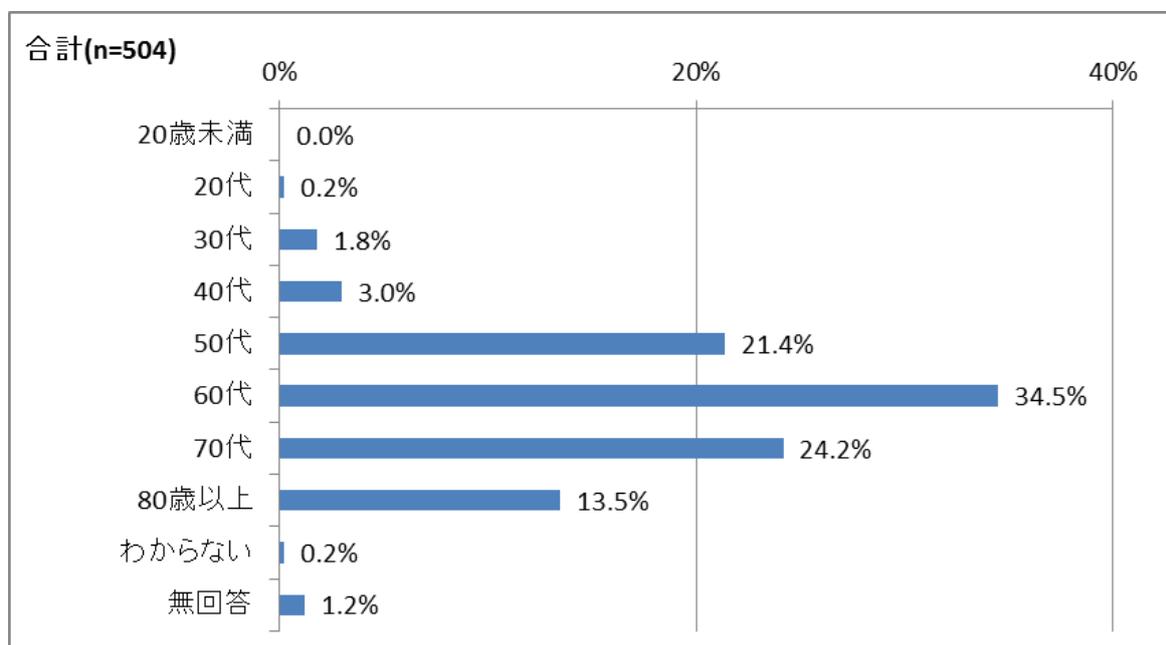
(3) 主な介護者の本人との関係

図表 1-3 主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4) 主な介護者の年齢

図表 1-4 主な介護者の年齢（単数回答）

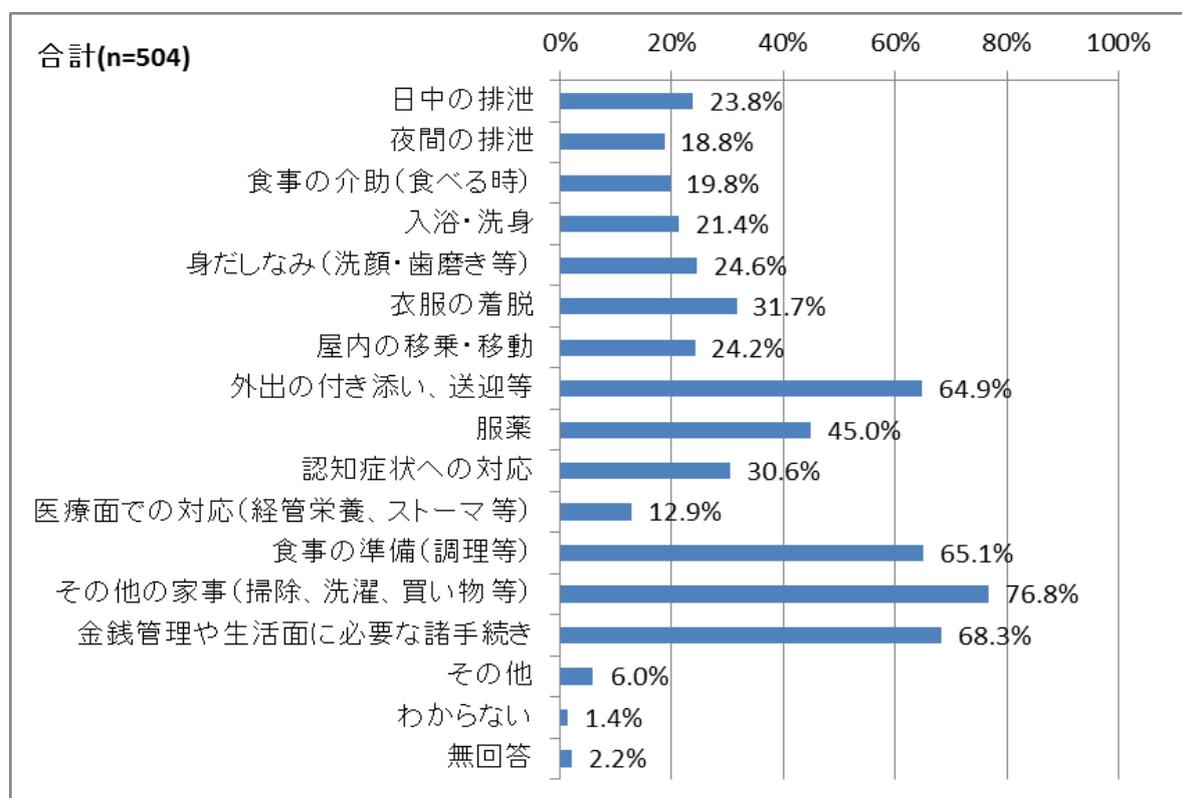


主な介護者については、子（46.6%）が一番多く、次に配偶者（30.6%）となっています。これは割合も含め、前回調査と変わっていません。

介護者の年齢については、60代が最も多く、介護者の高齢者が進んでいます。

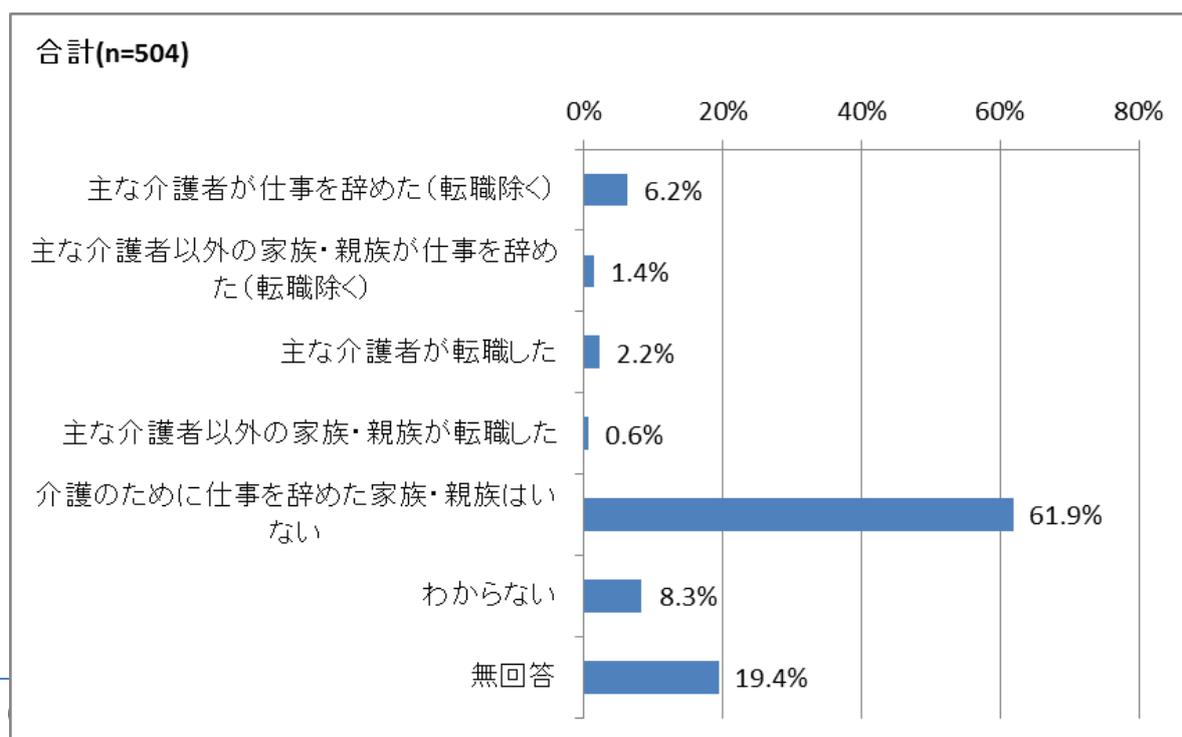
(5) 主な介護者が行っている介護

図表 1-5 主な介護者が行っている介護（複数回答）

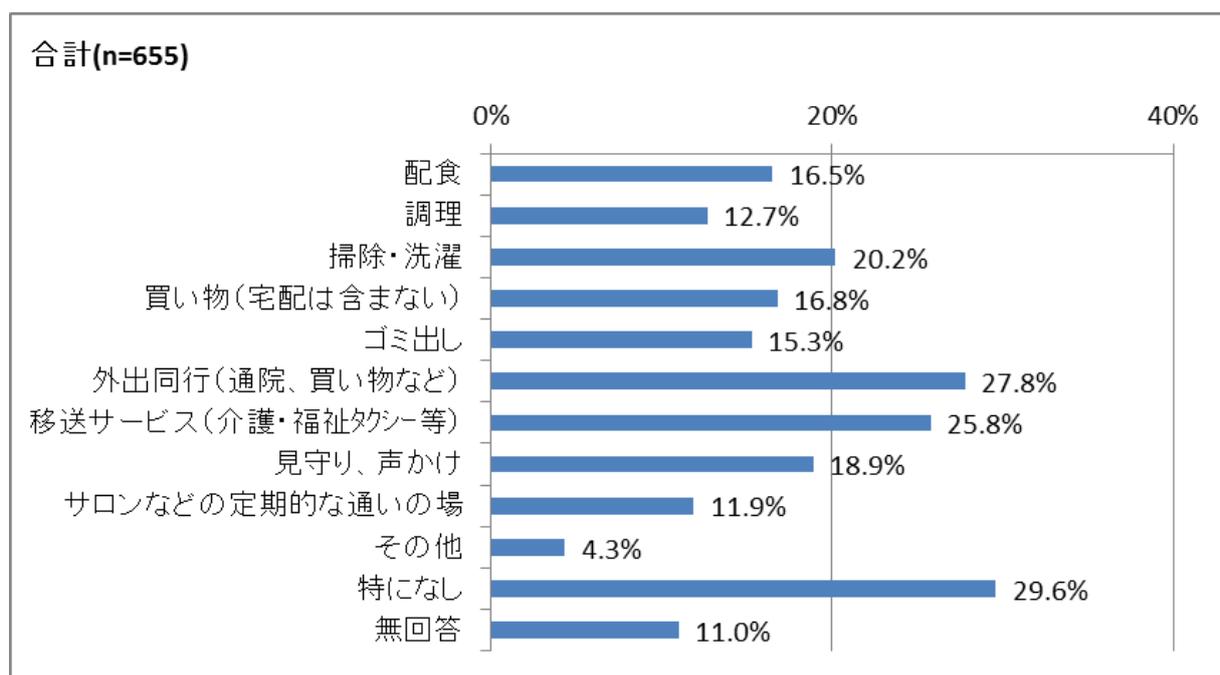


(6) 介護のための離職の有無

図表 1-6 介護のための離職の有無（複数回答）

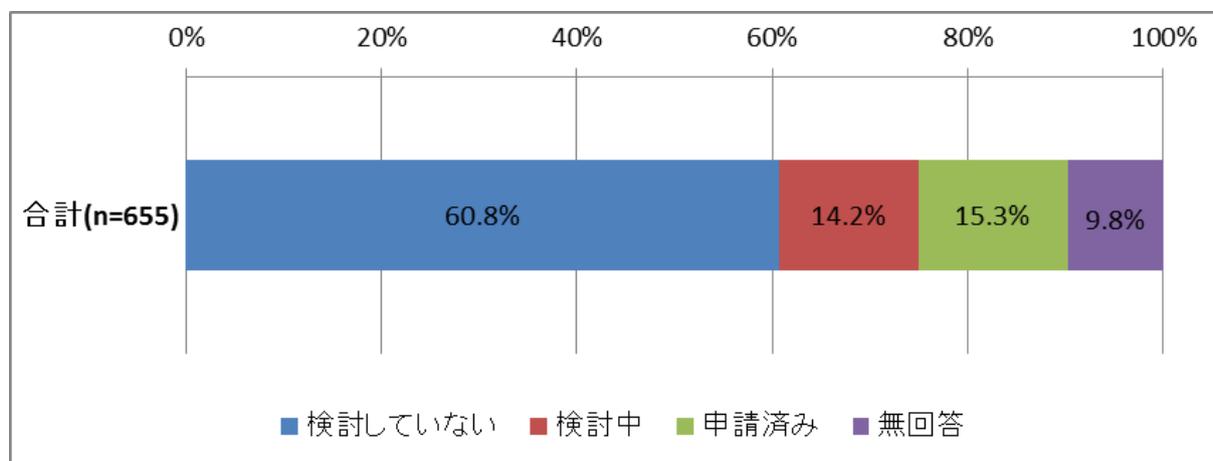


図表 1-7 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(複数回答)



(8) 施設等検討の状況

図表 1-8 施設等検討の状況(単数回答)



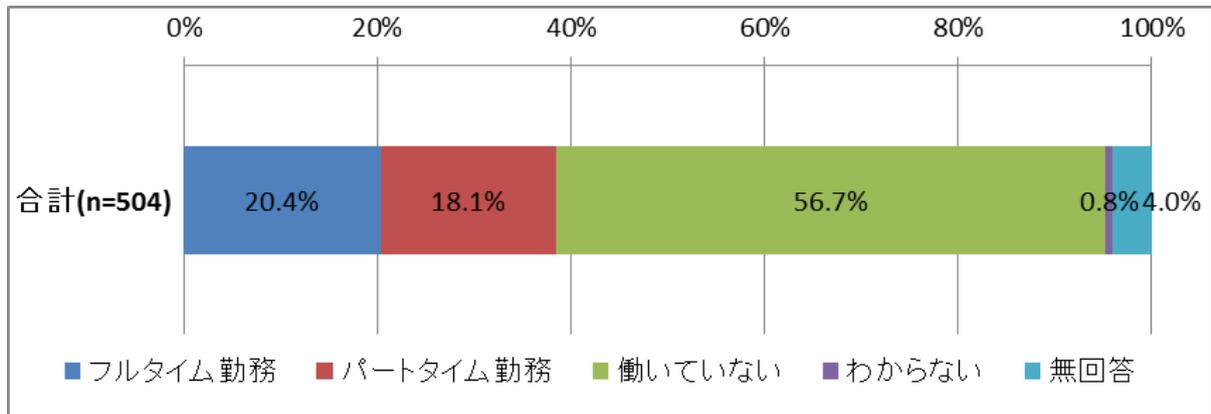
施設等の検討について、「検討中」「申請済み」とした方は、合わせて 29.5%でした。近年、特別養護老人ホームだけでなく、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）や介護付き有料老人ホーム（特定施設入居者生活介護）等、入所施設の多様化により、高齢者の住まいについて検討している方が増加している傾向であると考えられます。

平成 31 年 4 月 1 日現在の特別養護老人ホームの在宅での待機者は、74 名となっています。

4 調査結果（単純集計：B票）

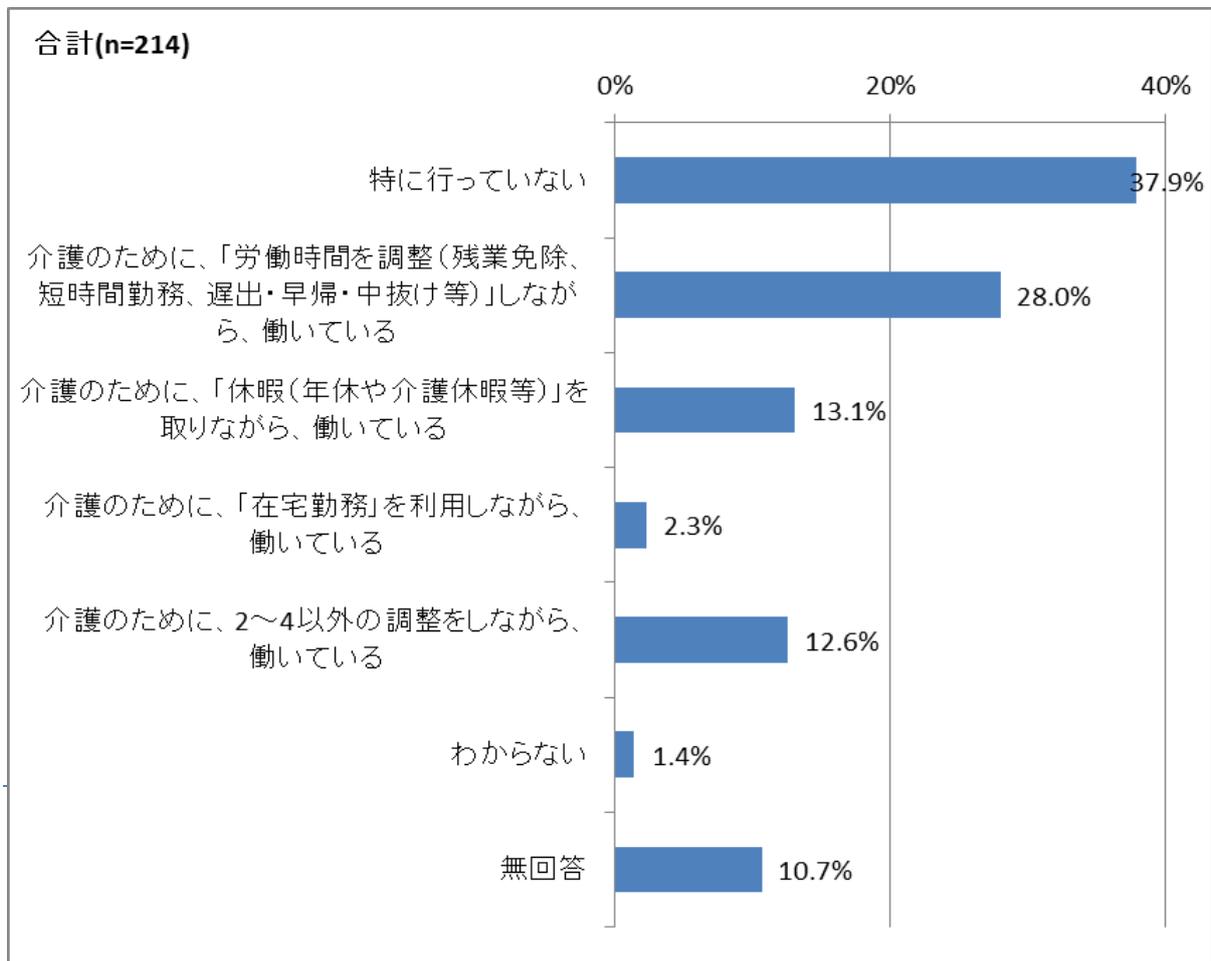
（1）主な介護者の勤務形態

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）

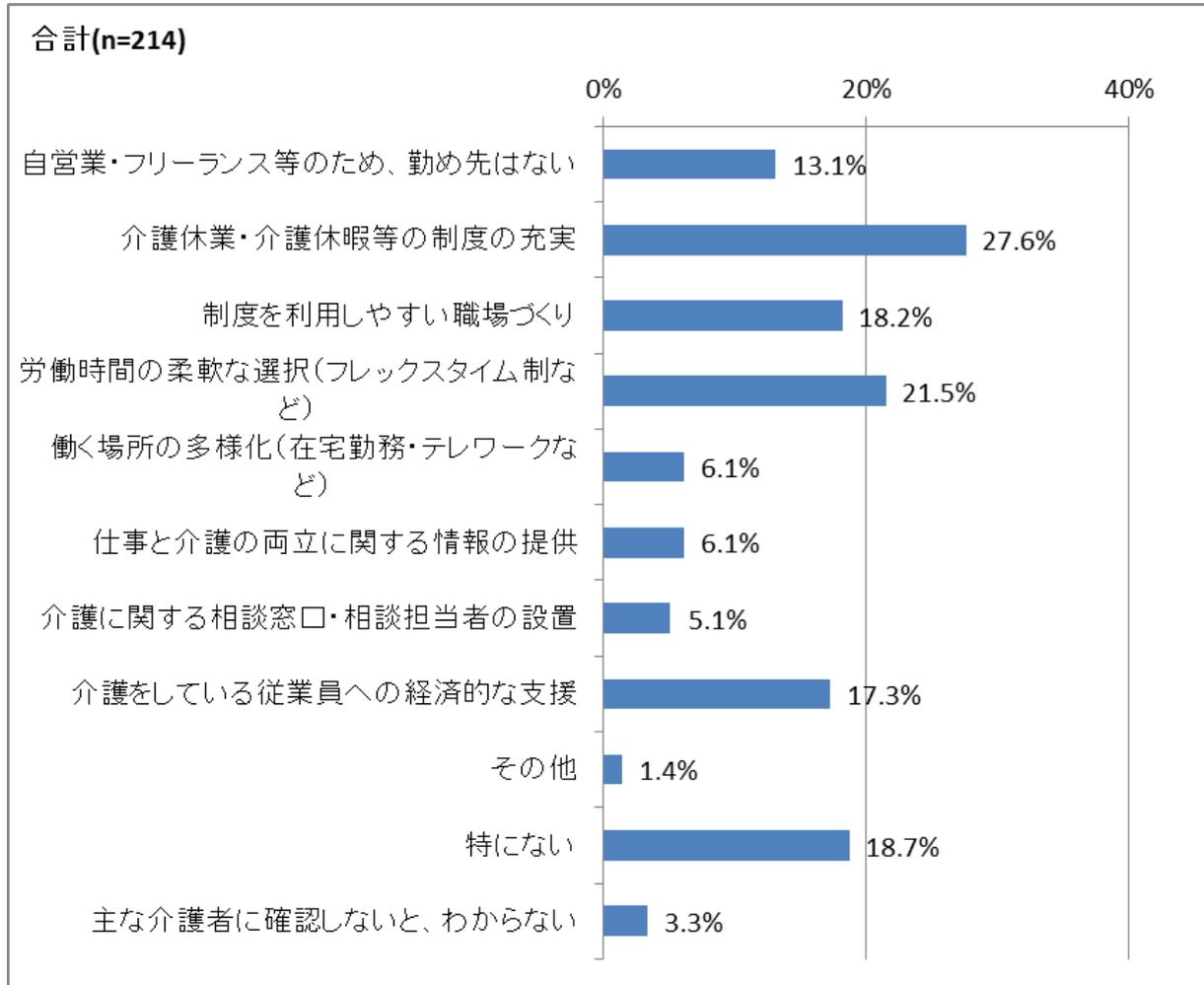


（2）主な介護者の方の働き方の調整の状況

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

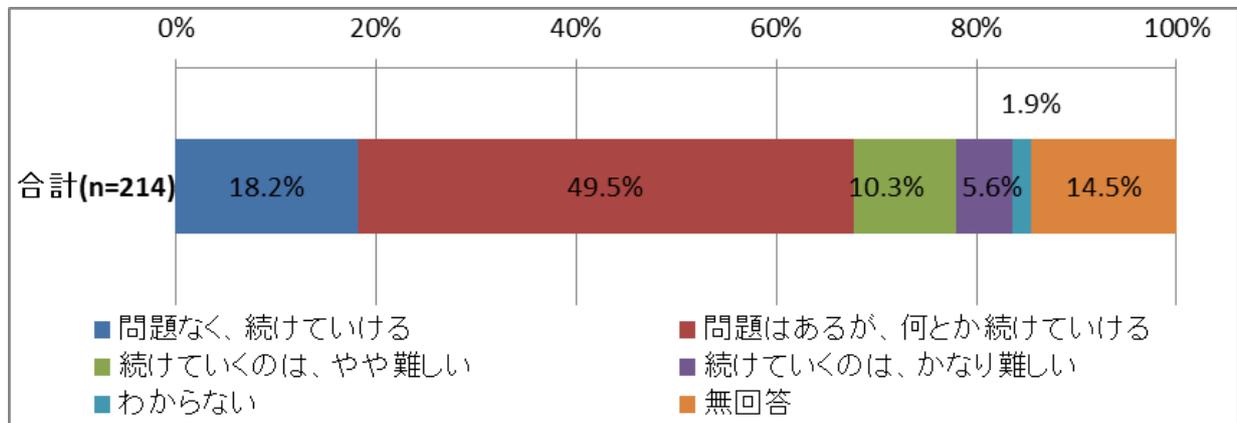


図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



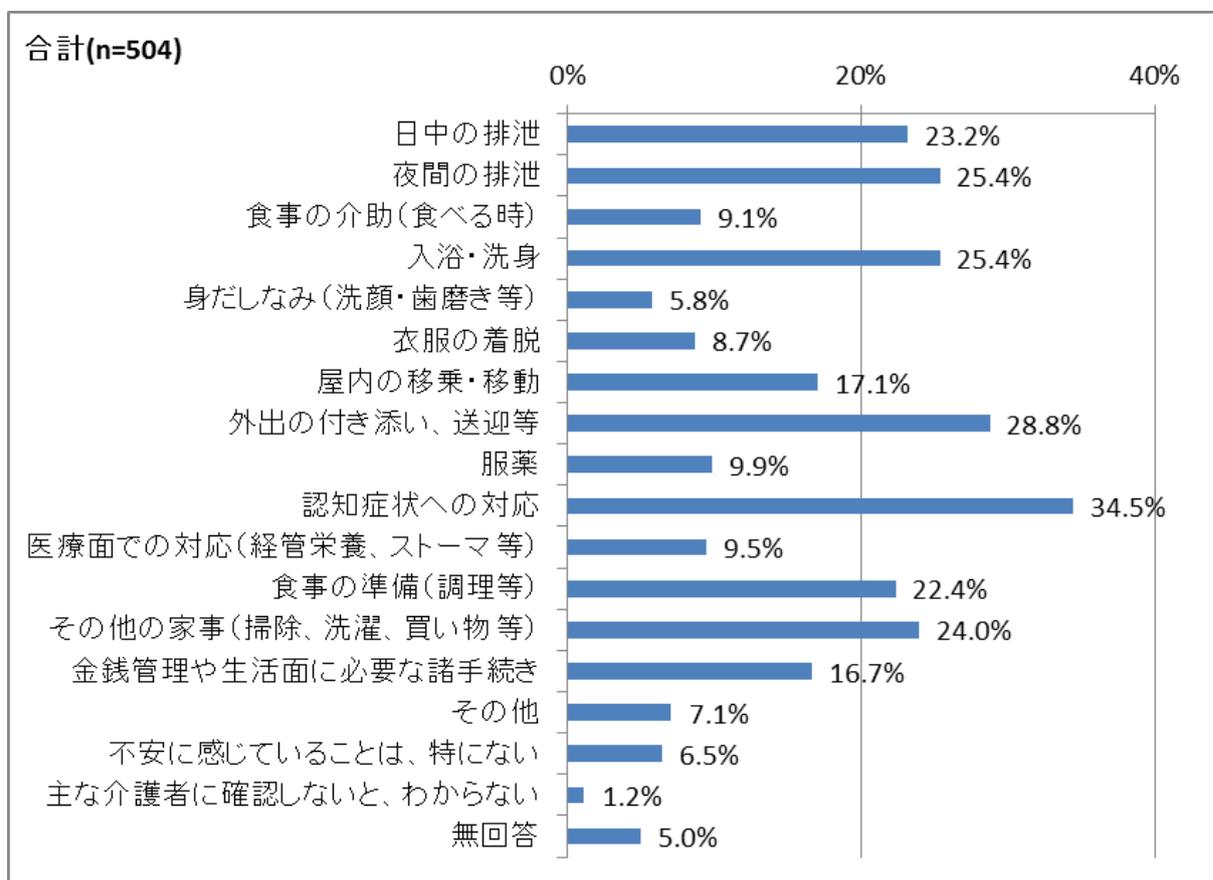
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
(複数回答)



主な介護者の 38.5%が何らかの仕事を行っており、そのうち 28%のひとが介護のために労働時間を調整しながら働いています。(図表 2-1,2)

勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 27.6%と最も多く、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が 21.5%と続いています。(図表 2-3)

主な介護者の就労継続の可否については、15.9%のひとが「続けていくのは、やや難しい」または「続けていくのは、かなり難しい」と回答しています。(図表 2-4)

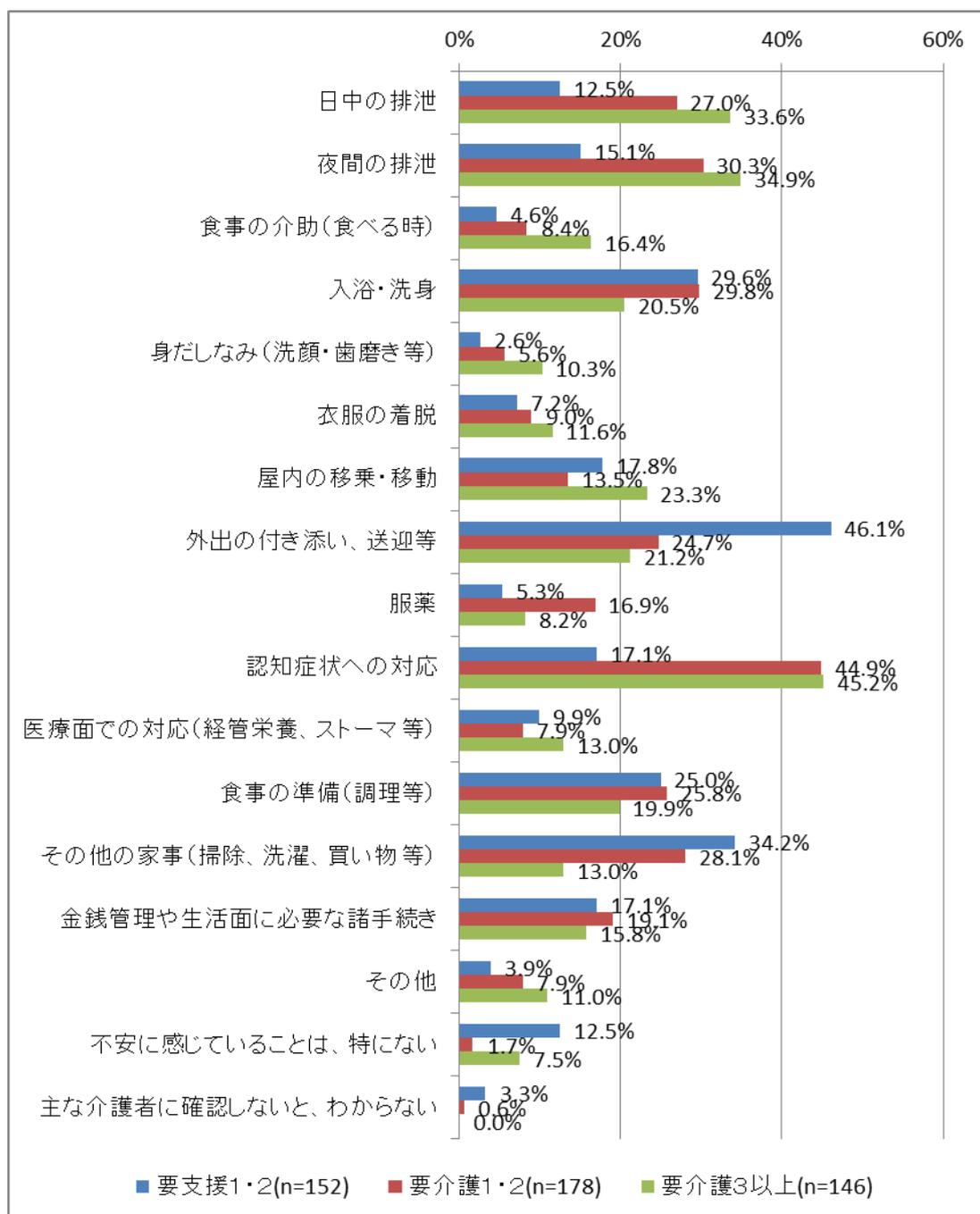
「主な介護者が不安に感じる介護」は、前回の調査結果と同じように「日中・夜間の排泄」「認知症状への対応」「外出の付き添い」や食事準備等の生活支援に高い割合となっていますが、これは介護度に応じ傾向が異なりますのでクロス分析にて傾向を見ます。(図表 2-5)

5 調査結果（クロス集計）

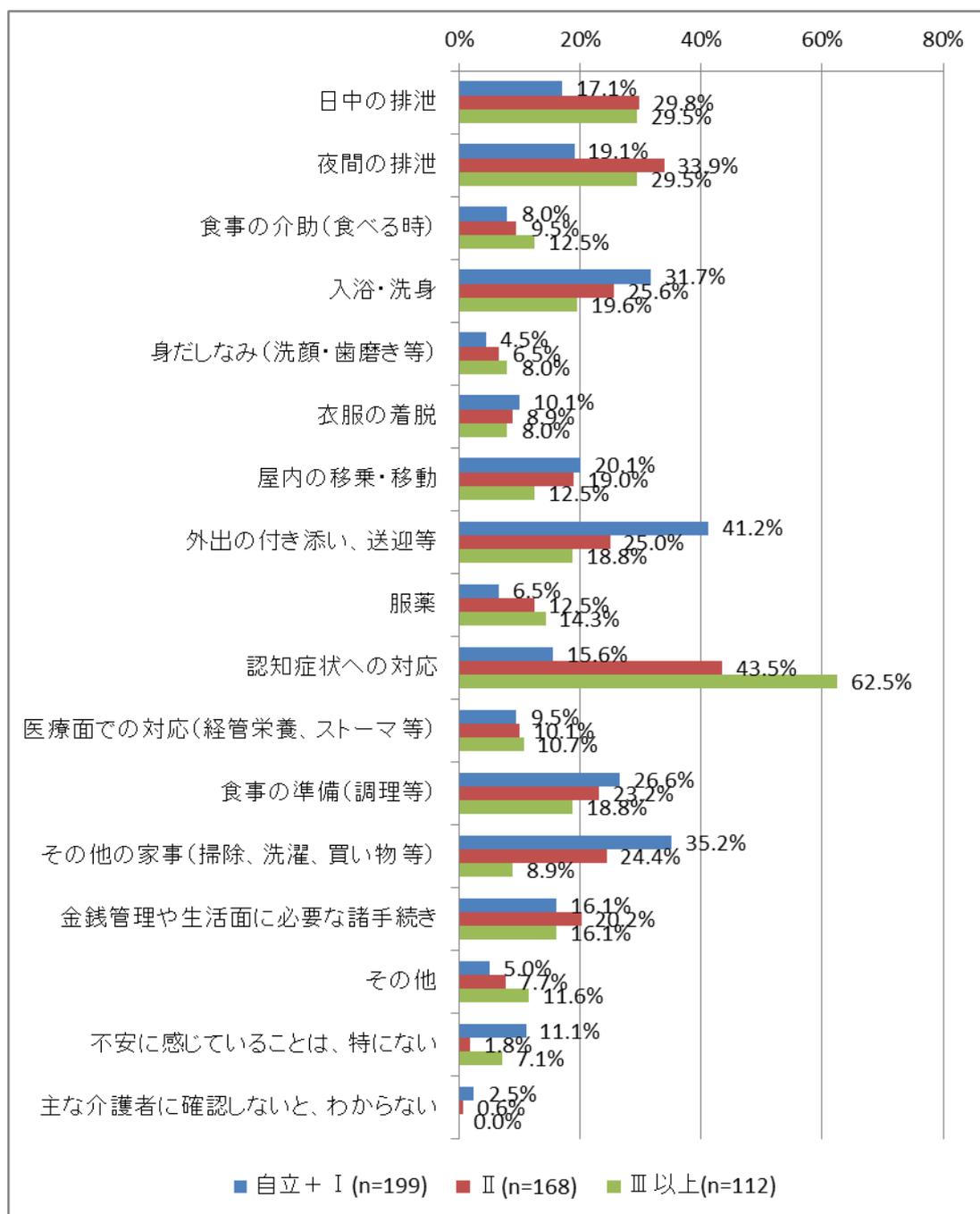
在宅限界点の向上のためのサービス提供体制

(1) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

図表 3-1 要介護度別・介護者が不安を感じる介護



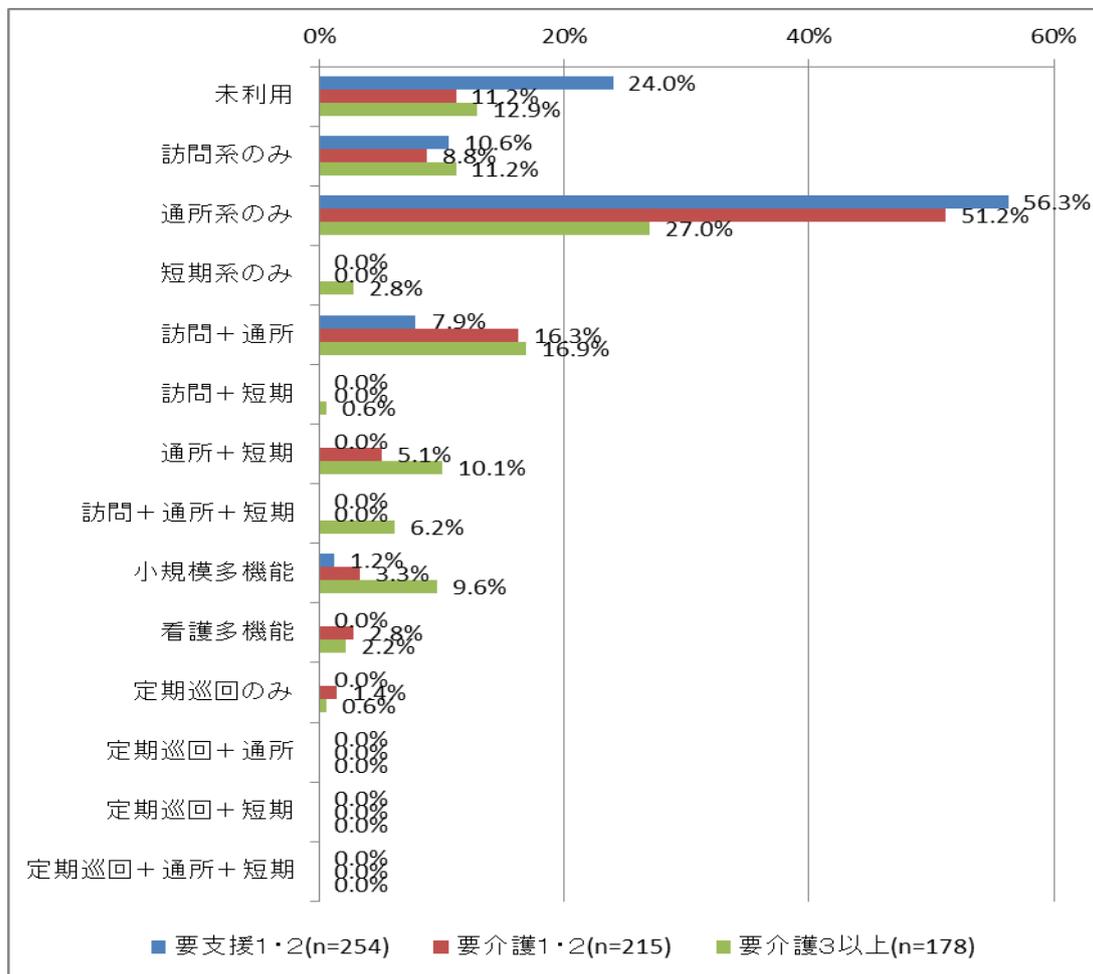
図表 3-2 認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護



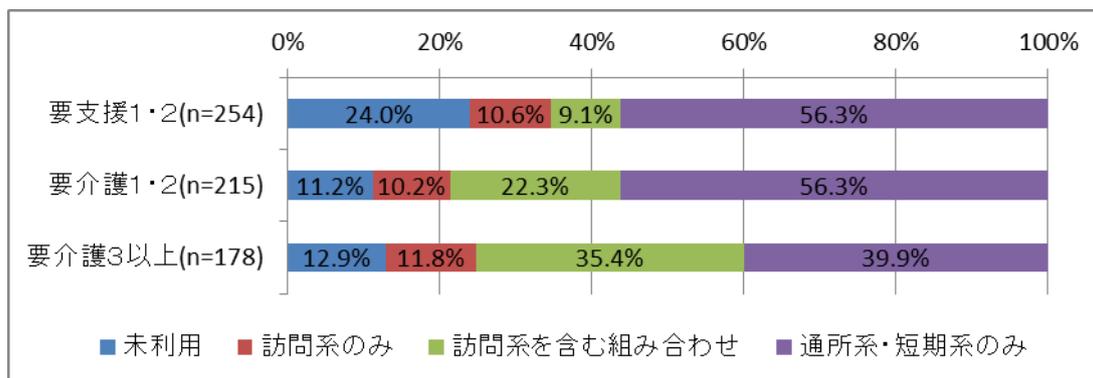
- 図表 3-1、3-2 は介護度別と認知症自立度別の介護者が不安を感じる介護です。
- 要介護度が重度化及び認知症自立度ではⅡ以上において、日中、夜間の排泄の介護が高い傾向にあります。これは、前回の調査においても同様の結果が出ており介護者にとっては最も不安を感じる介護であると言えます。
- また、介護度や認知症自立度が軽度の高齢者では、外出の付き添いや食事、家事等の生活援助への不安が高くなっています。
- 一方、要支援1・2、要介護1・2においては、食事の準備、家事、外出への付き添い等生活支援に対する不安が大きくなっていることが分かります。

(2) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

図表 3-3 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



図表 3-4 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



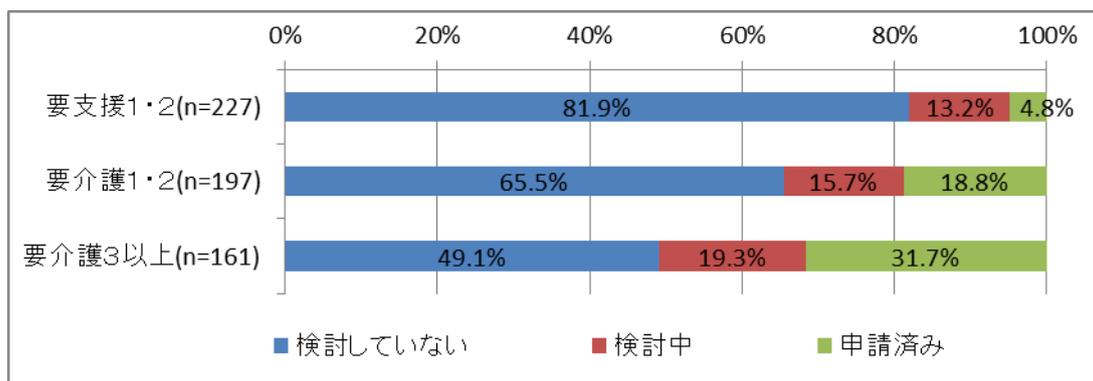
○ 図表 3-3、3-4 は要介護度別のサービス利用の組み合わせです。

○ 要介護2以下では、通所系のサービス利用者が半数以上を占めていますが、要介護3以上では、訪問系及び訪問系を含む組み合わせのサービス利用者が約半数を占め、通所系サービスは、4割程度に減少しています。

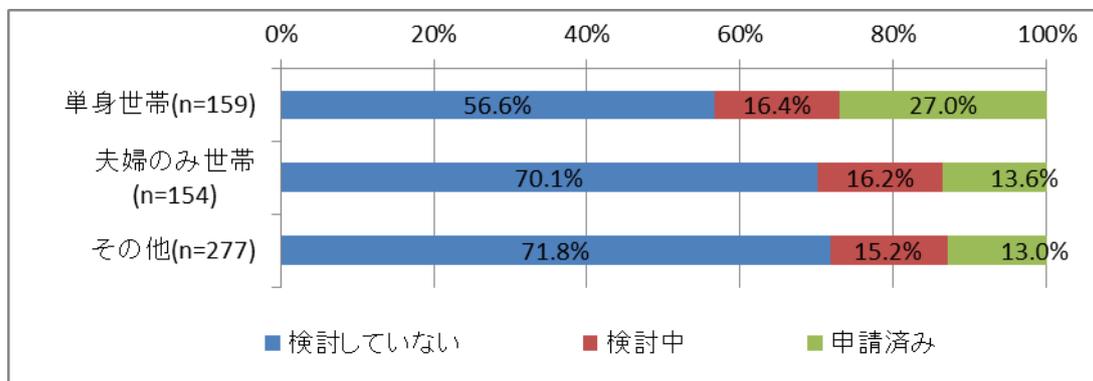
(3) 「サービス利用」と「施設等検討の状況」の関係

- ここでは、「施設等検討の状況」について「要介護度」「世帯類型」や「介護サービスの組み合わせ」等と集計分析を行います。
- 「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

図表 3-5 要介護度別・施設等検討の状況



図表 3-6 世帯類型別・施設等検討の状況

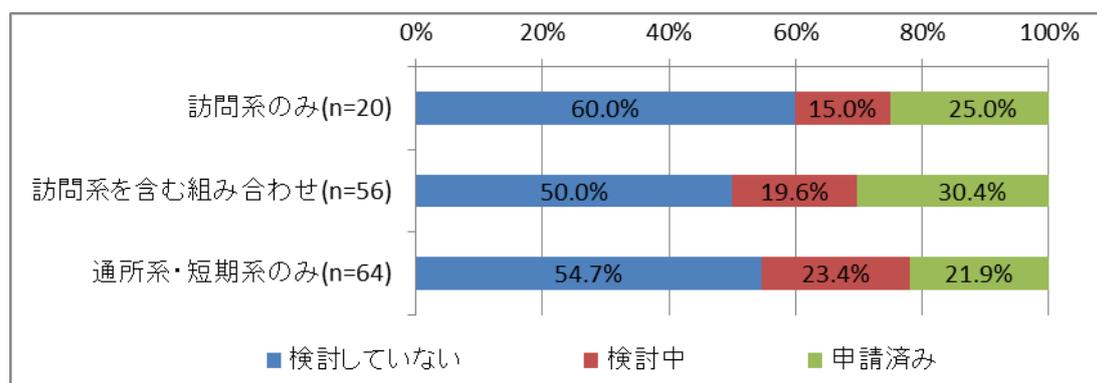


- 図表 3-5 と図表 3-6 は、要介護度別及び世帯類型別と施設の検討状況を集計いたものです。
- 単身世帯で要介護度が高いほど、施設入所を検討している割合が高くなっています。夫婦のみとその他世帯では差がないことから独居生活であるために居宅生活に不安を感じる事が施設入所等を検討する原因の一因である可能性があります。

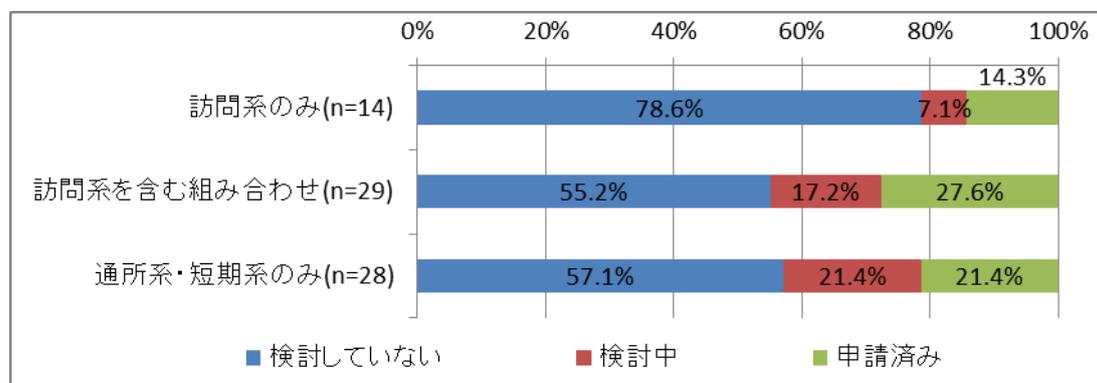
○図表 3-7 から図表 3-9 までは、サービス利用の組み合わせと施設等検討の関係を表した表です。

○要介護度が高くなると施設等の検討をしていない方の割合が、訪問系のみサービスを利用している場合、高くなる傾向はありますが、訪問系のみサービスを利用している方の割合も低く、一概に訪問系のみサービスが有効であるとは言えません。要介護度が高くなった場合でも訪問系を中心として状況に合ったサービスの組み合わせが必要となると考えます。

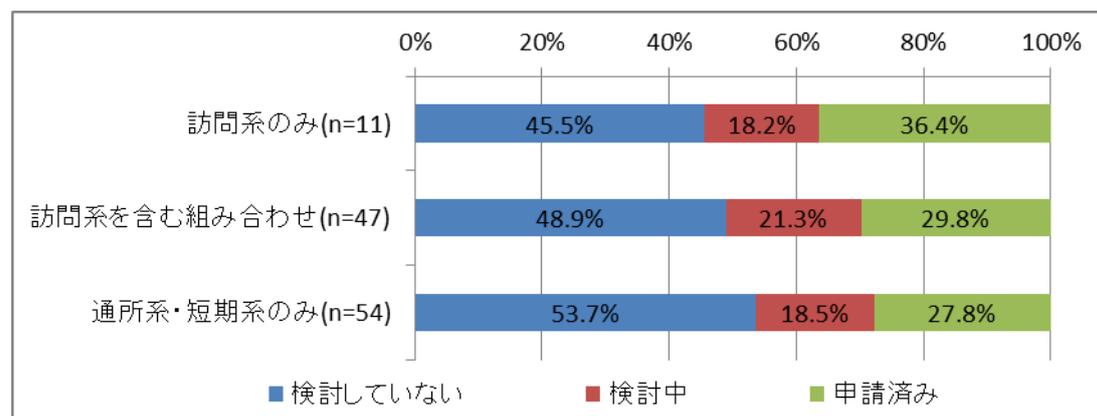
図表 3-7 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



図表 3-8 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



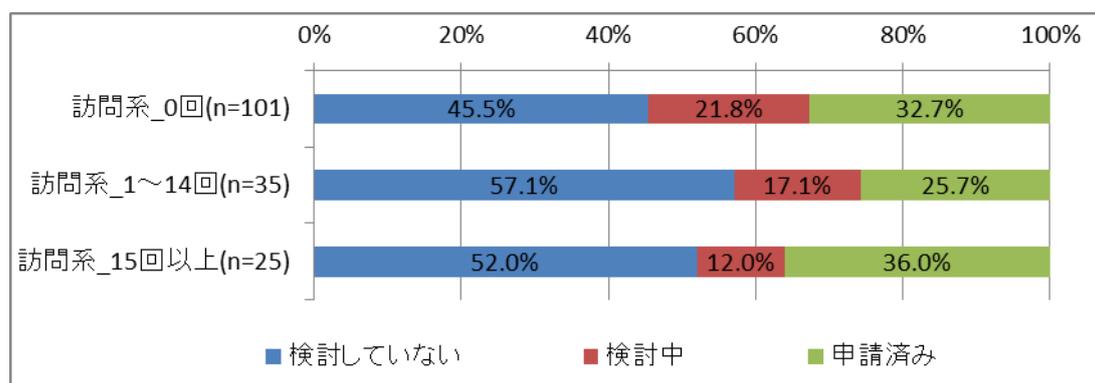
図表 3-9 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



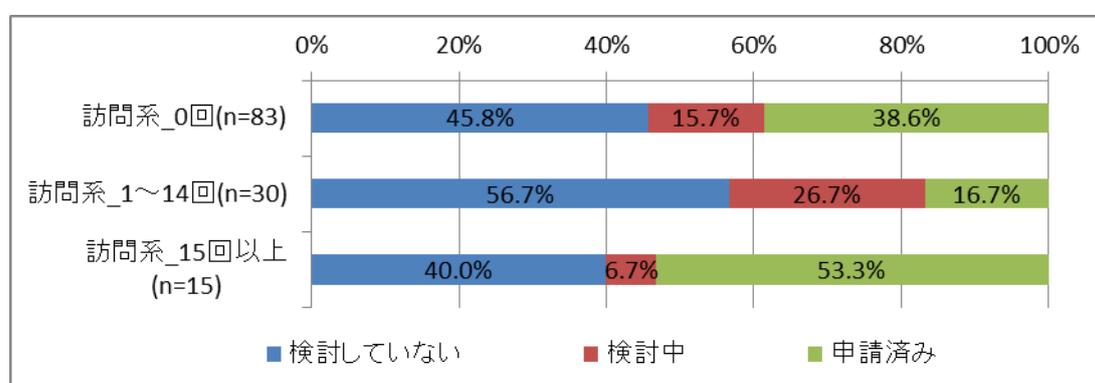
○ここでは、訪問系、通所系、短期系それぞれに要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けてサービスの利用回数と施設の検討状況との関係について示しています。
 (図表3-10～図表3-15)

○訪問系及び通所系サービスの利用回数と施設の検討状況について明確な傾向はみられませんでしたが、短期系15回以上で要介護3以上の利用者は「施設入所申請済」「検討中」が9割を占め、認知症自立度Ⅲ以上では全員が「施設入所申請済」でした。

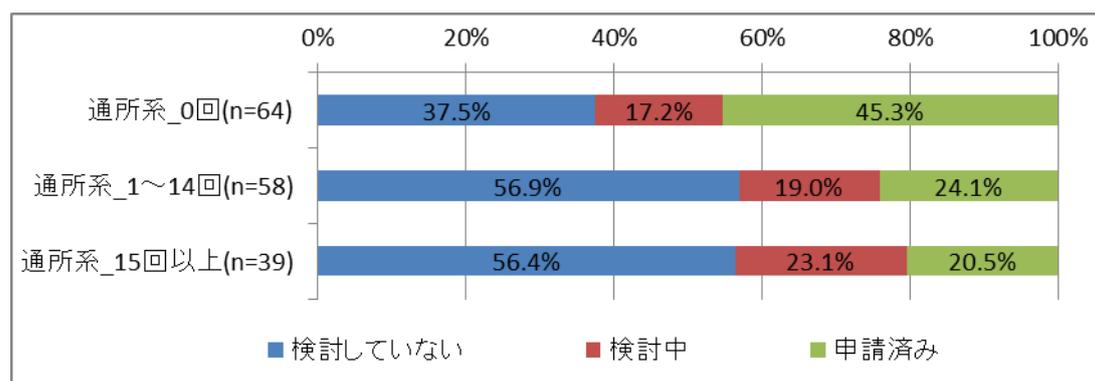
図表3-10 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



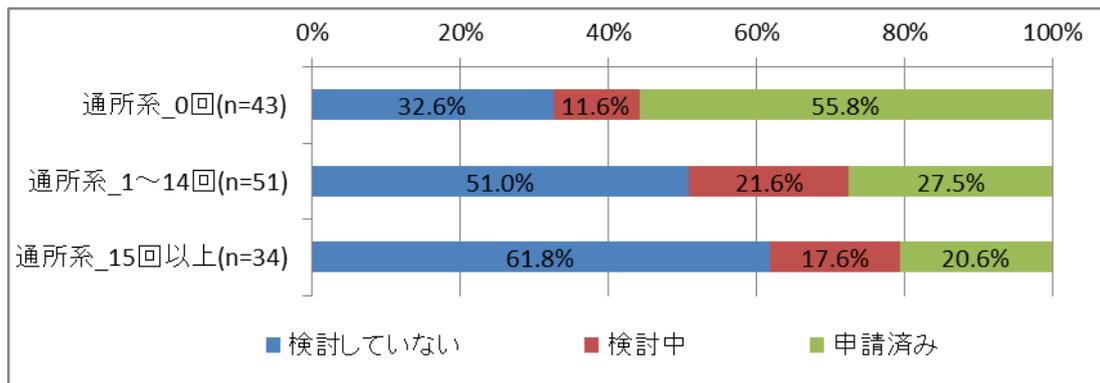
図表3-11 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



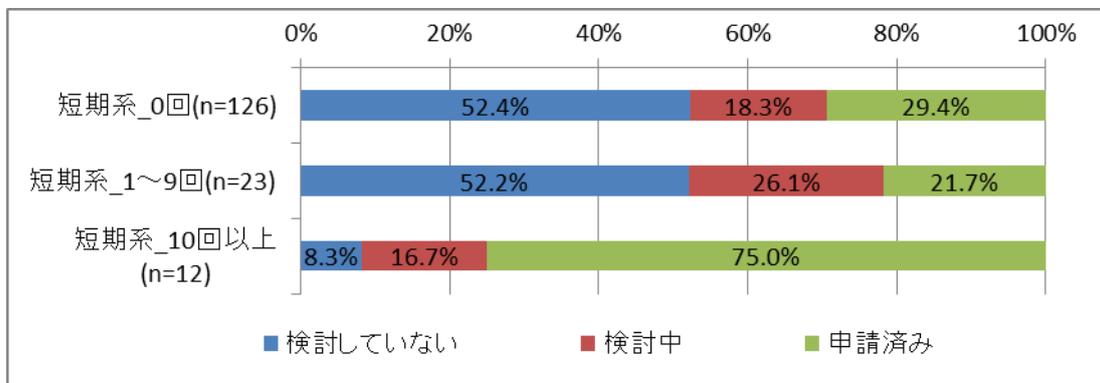
図表3-12 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



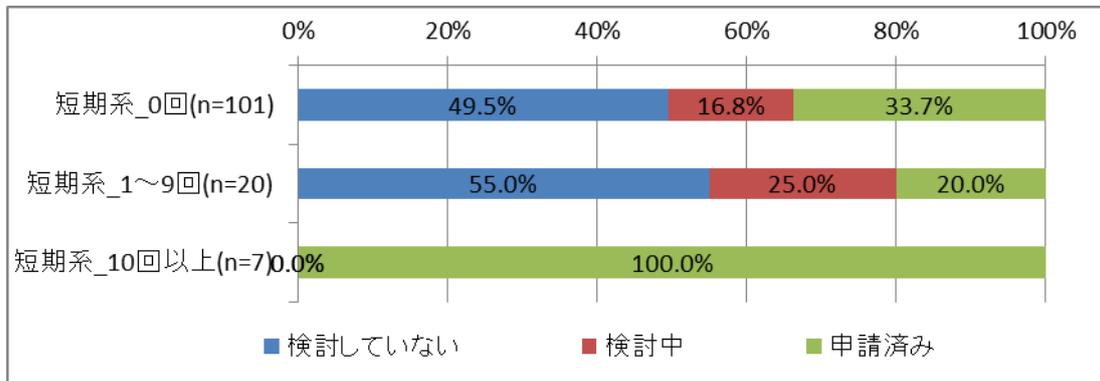
図表 3-13 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



図表 3-14 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



図表 3-15 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



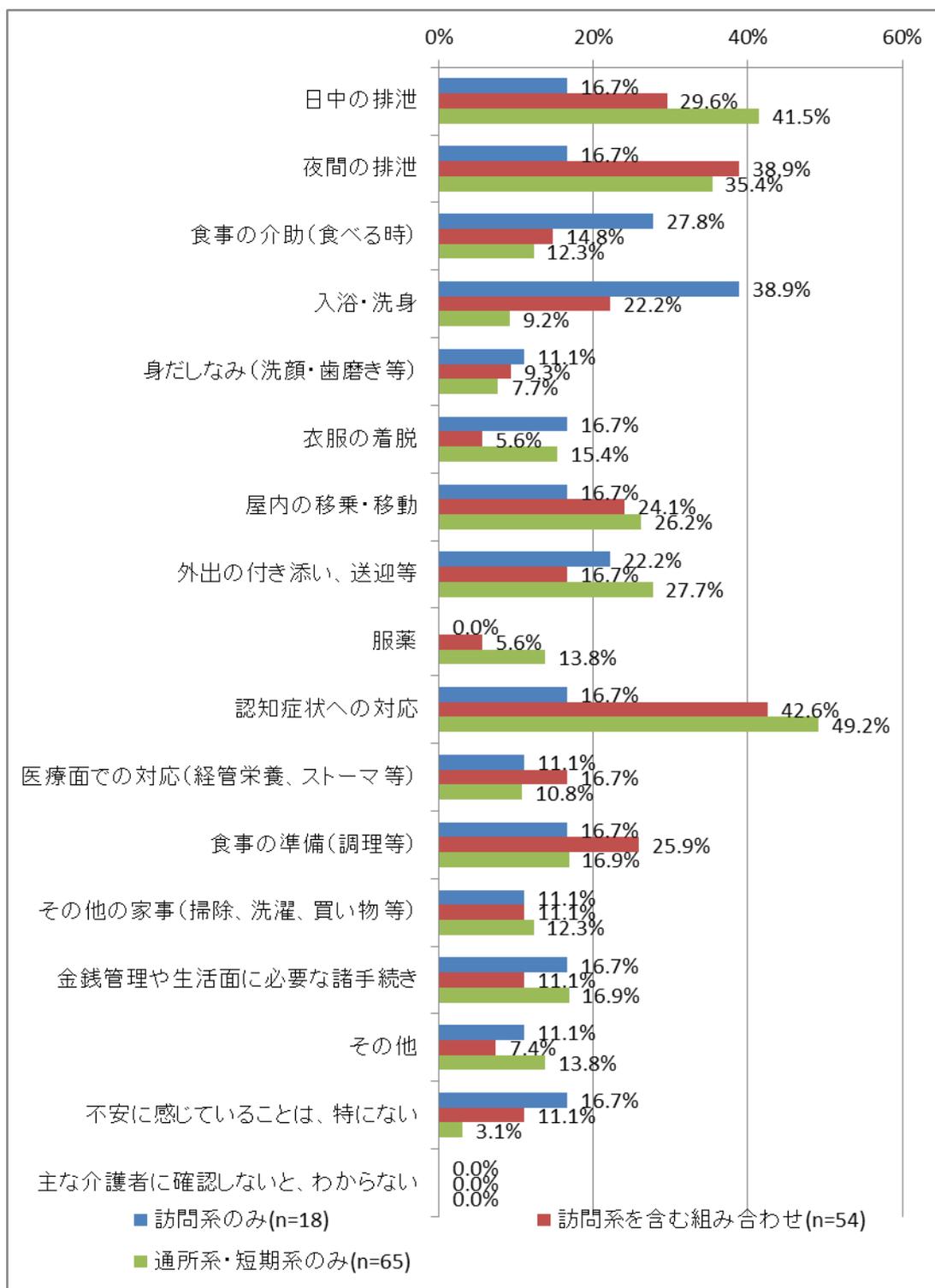
（4）「サービス利用」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護等）」について、「主な介護者が不安を感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定していま

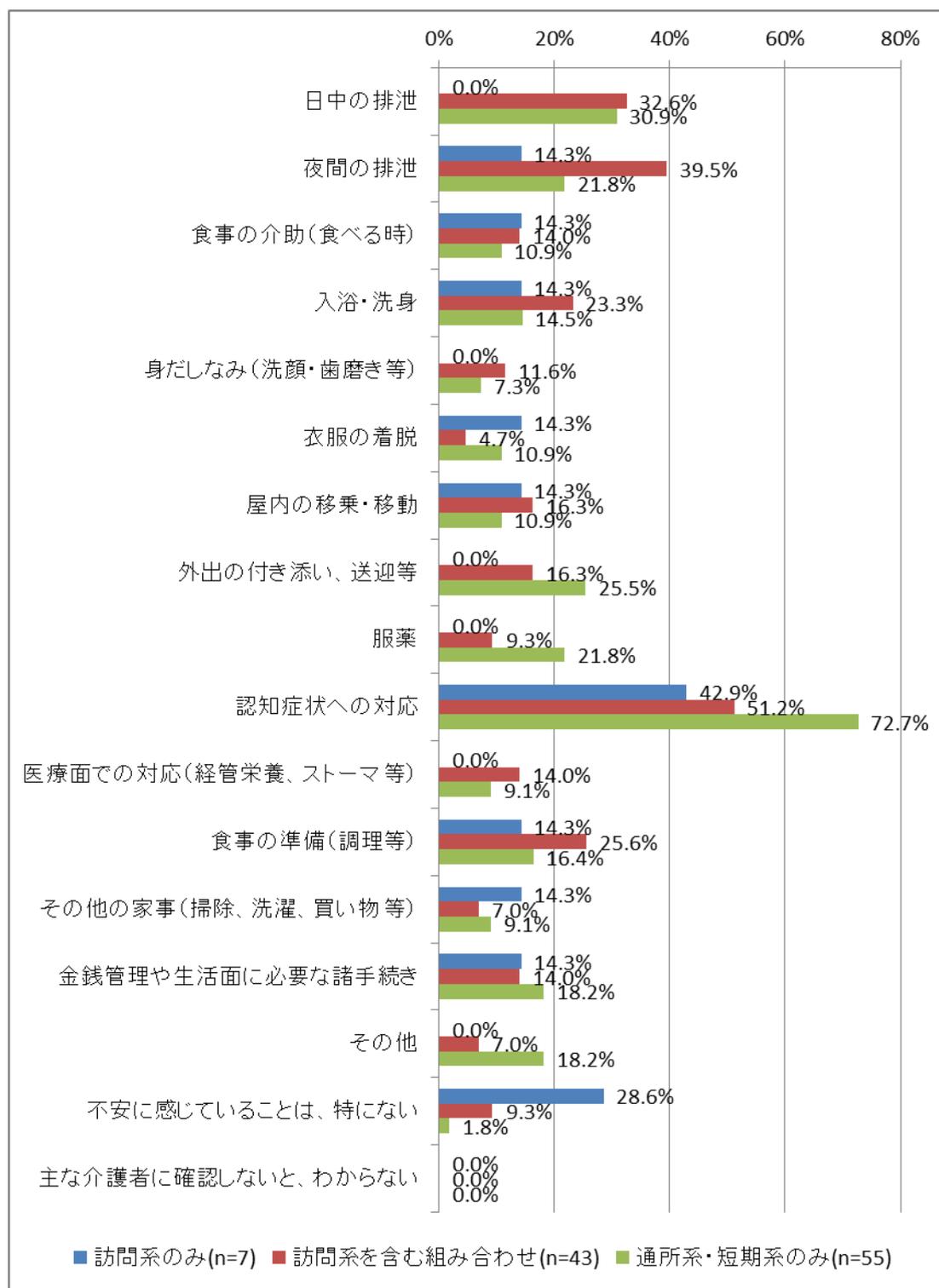
す。

- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

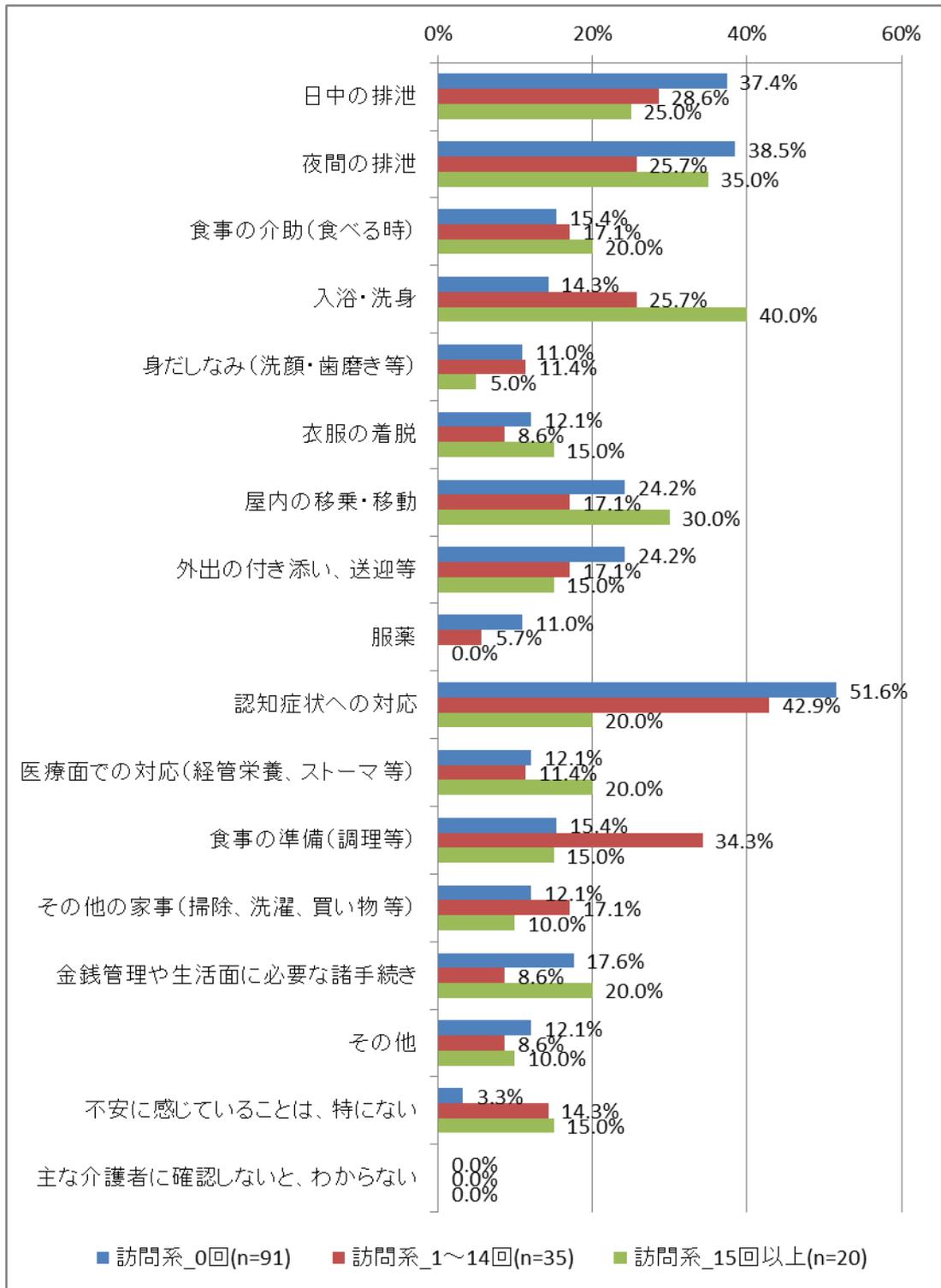
図表 3-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



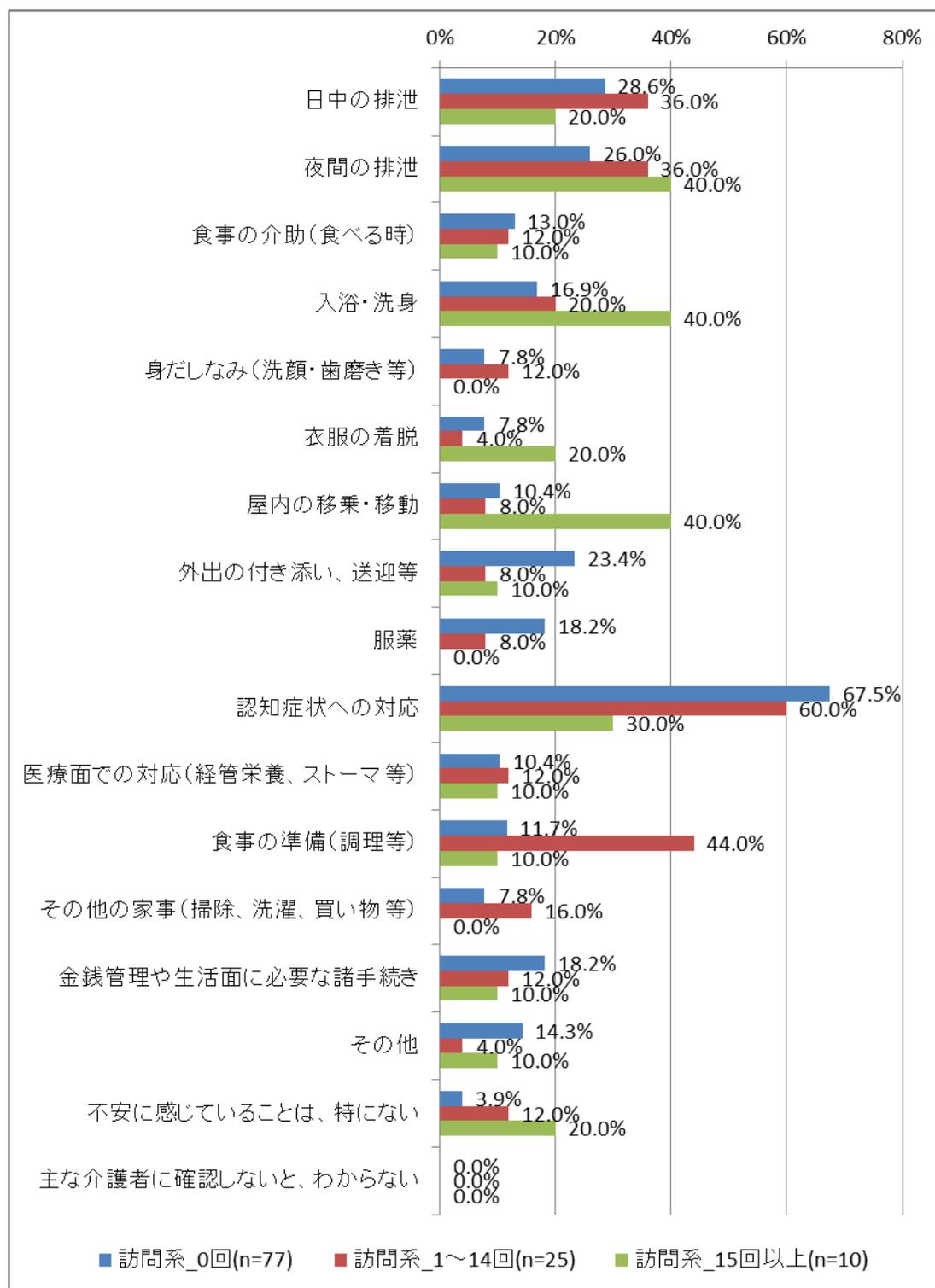
図表 3-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



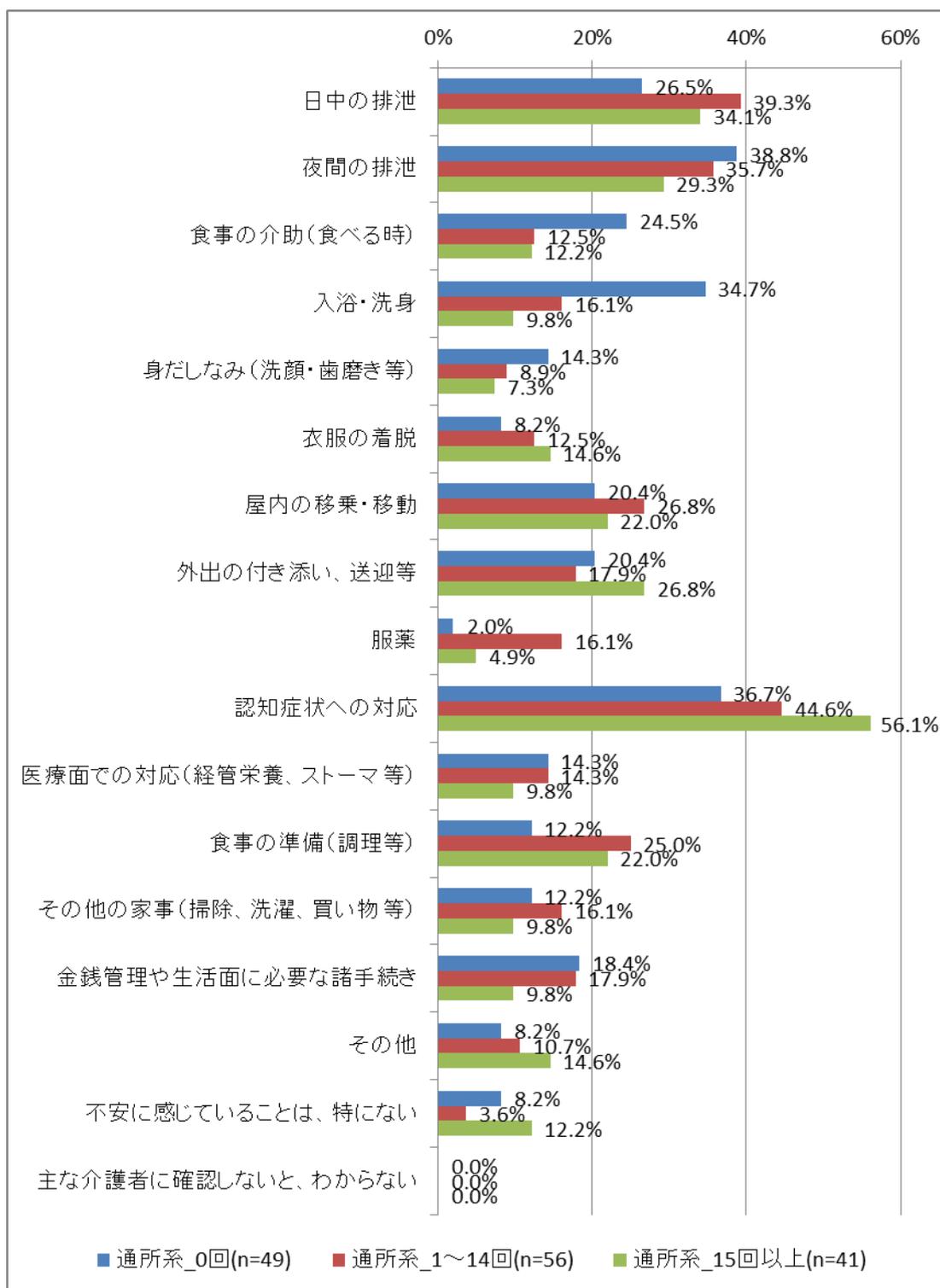
図表 3-18 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



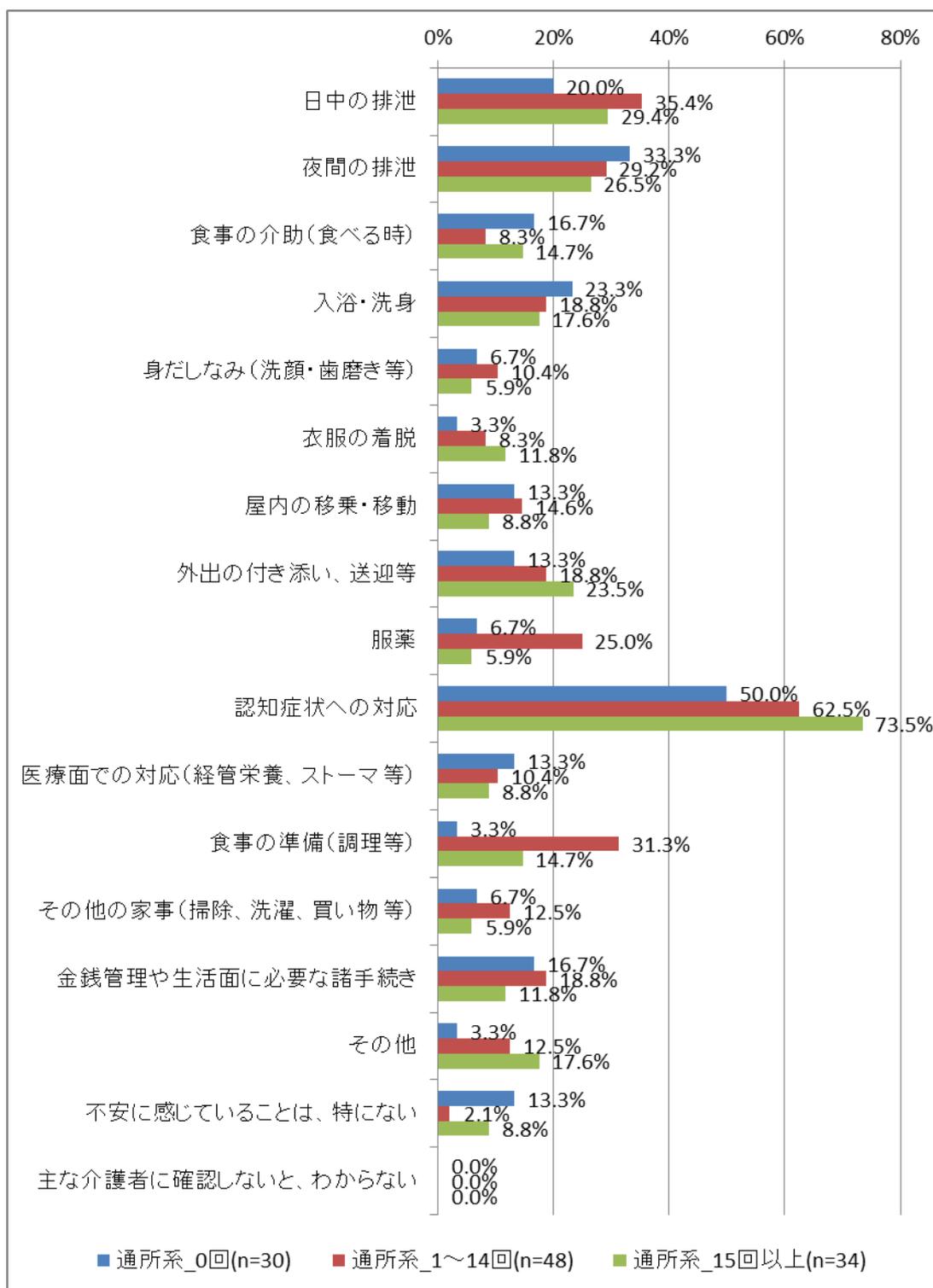
図表 3-19 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



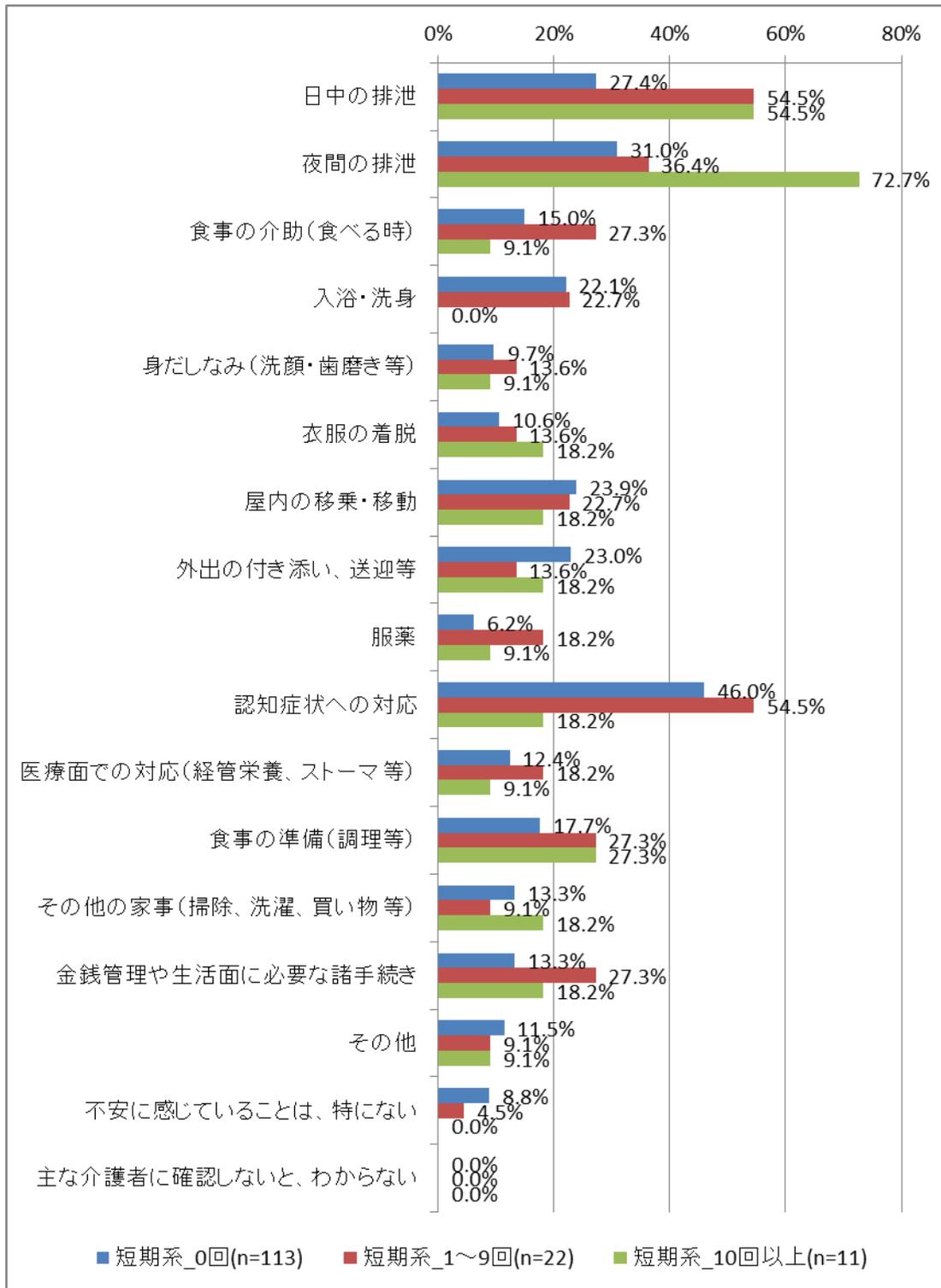
図表 3-20 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



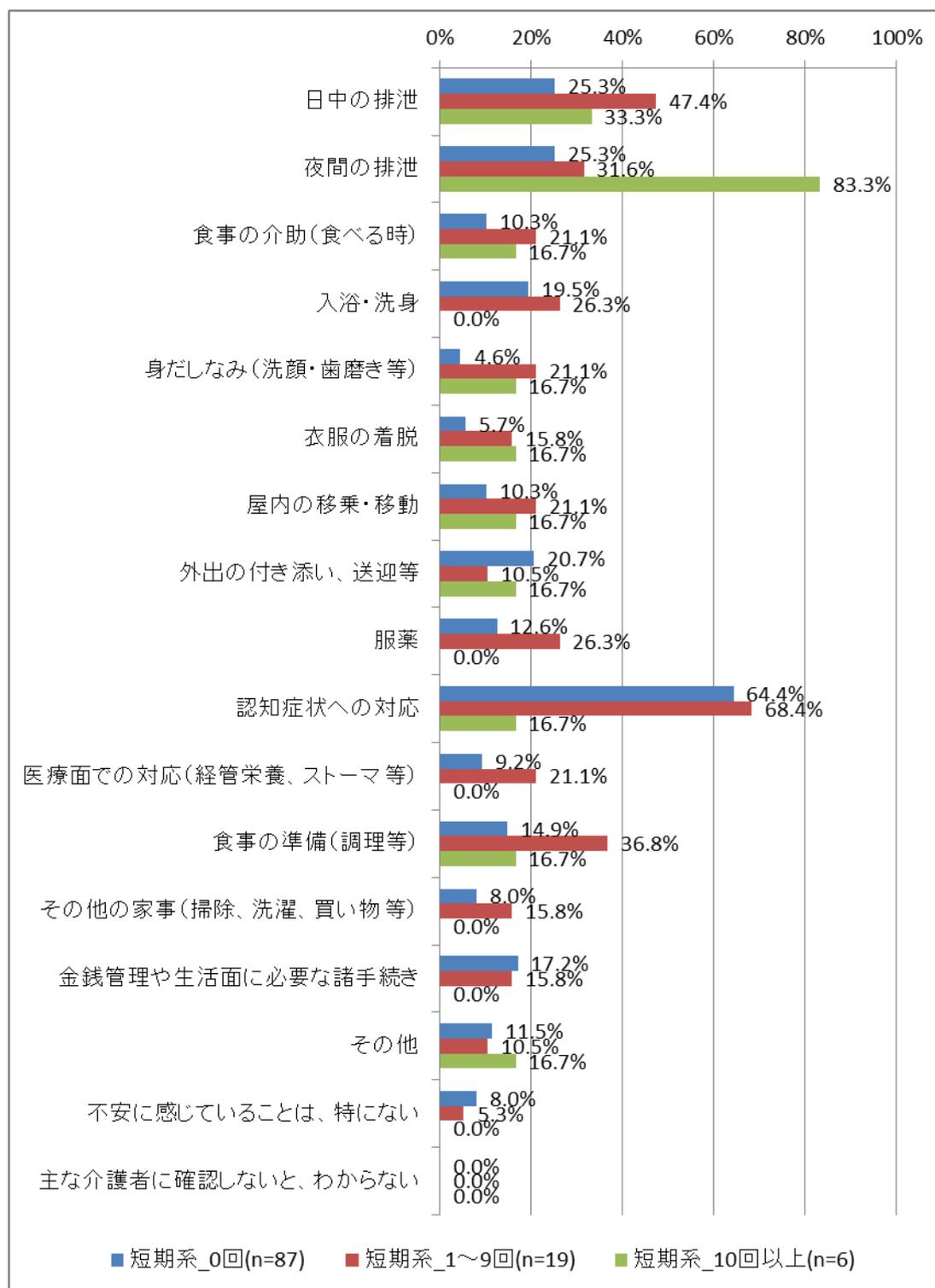
図表 3-21 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



図表 3-22 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



図表 3-23 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



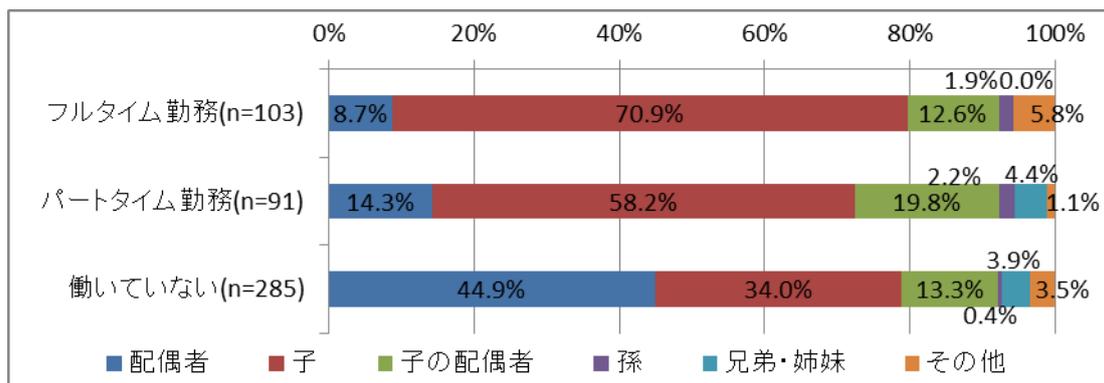
6 調査結果（クロス集計）

仕事と介護の両立に向けたサービス提供体制

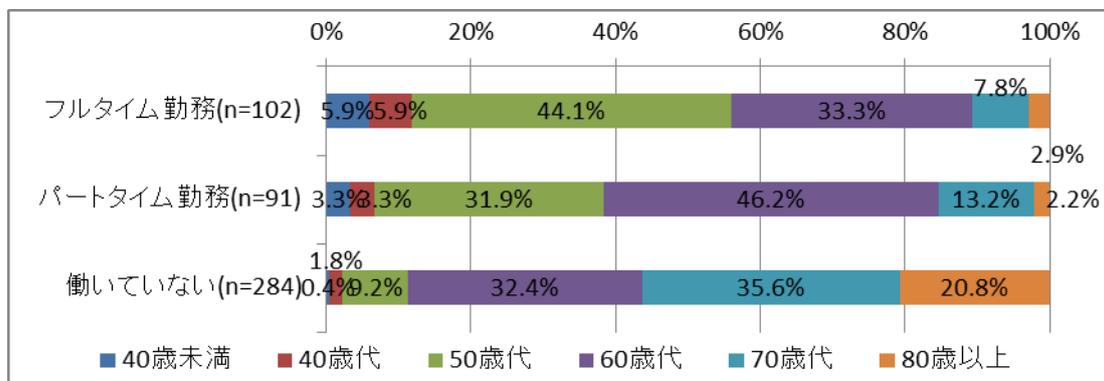
（1）基礎集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、介護度や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。

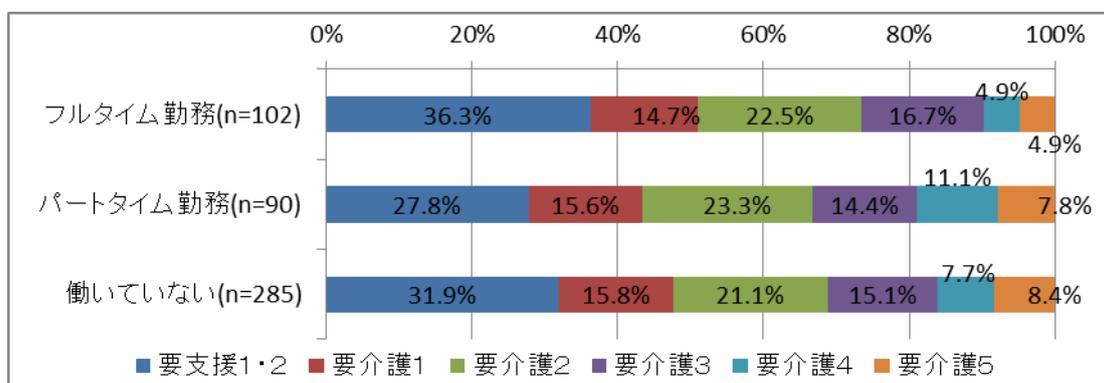
図表 4-1 就労状況別・主な介護者の本人との関係



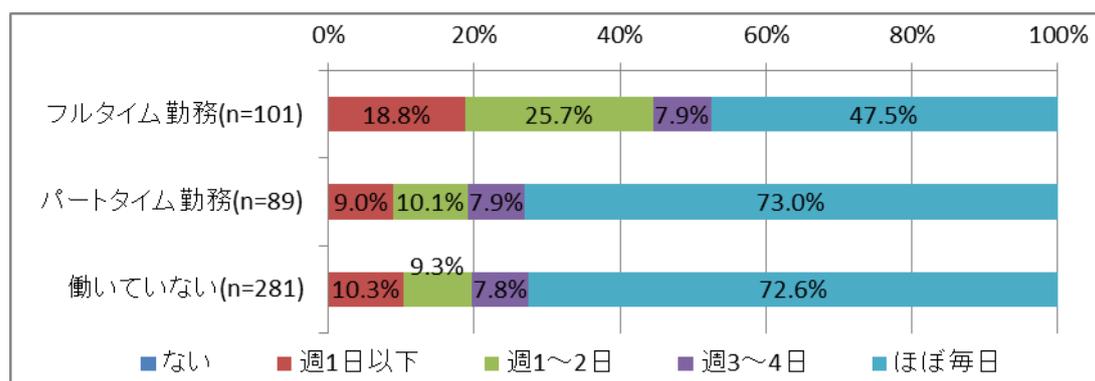
図表 4-2 就労状況別・主な介護者の年齢



図表 4-3 就労状況別・要介護度



図表 4-6 就労状況別・家族等による介護の頻度



(2) 介護サービスと介護者の就労継続見込み

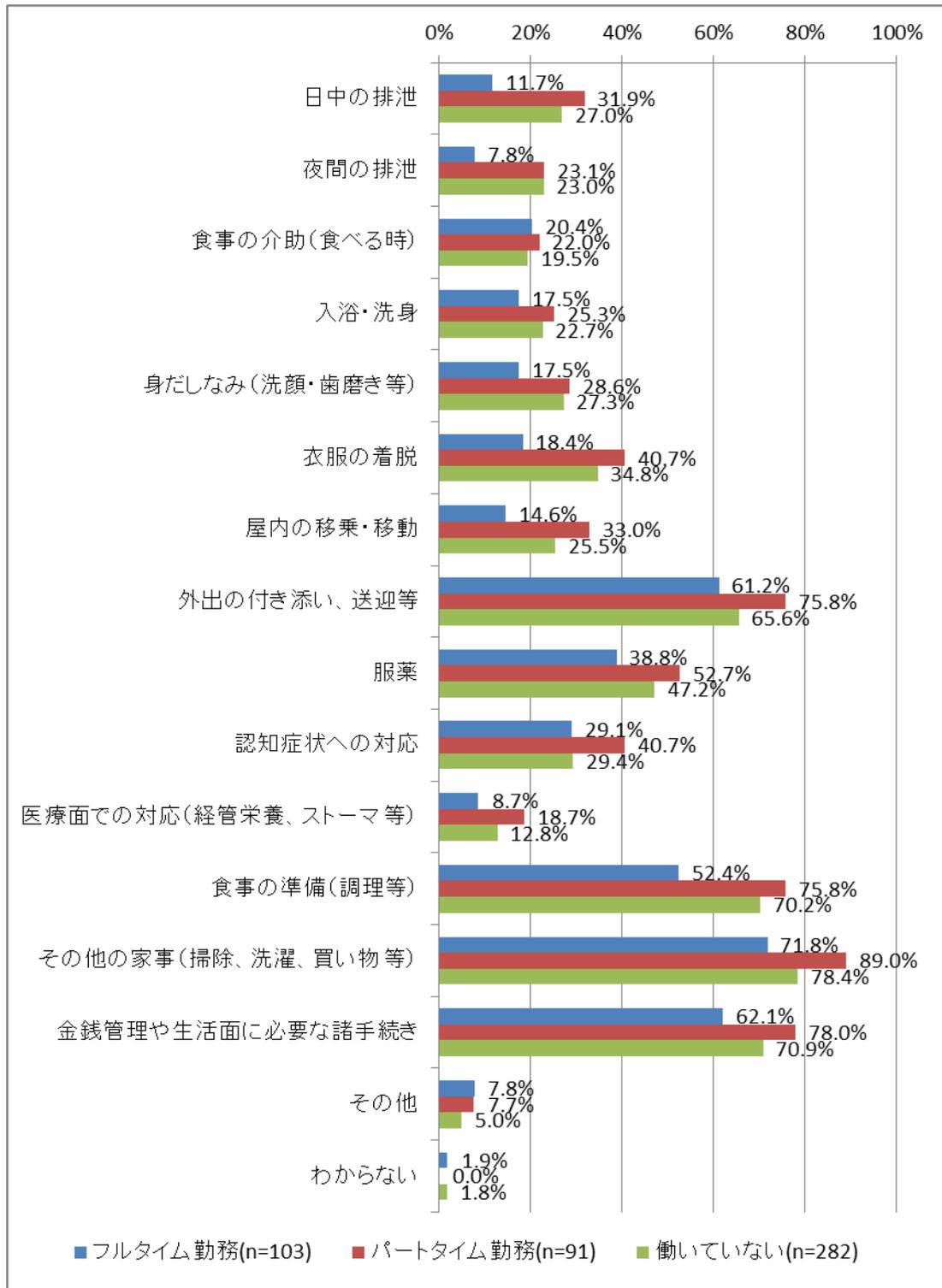
○ ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています。

○ 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。

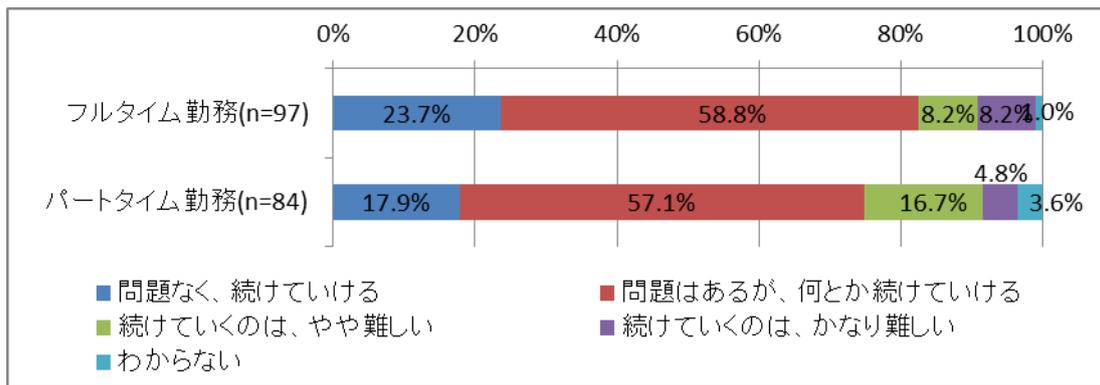
○ 図 4-7「就労状況別・主な介護者が行っている介護」において、「働いていない」に人と「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」の人との比較において、生活介護より「日中・夜間の排泄」や「衣服の着脱」等身体介護に係る介護について割合が高くなっています。

○ なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています(図表 4-8、9、10)。

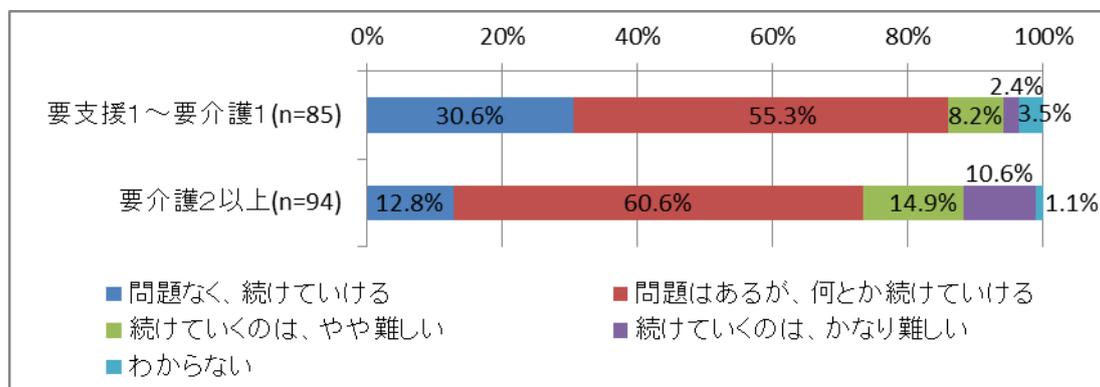
図表 4-7 就労状況別・主な介護者が行っている介護



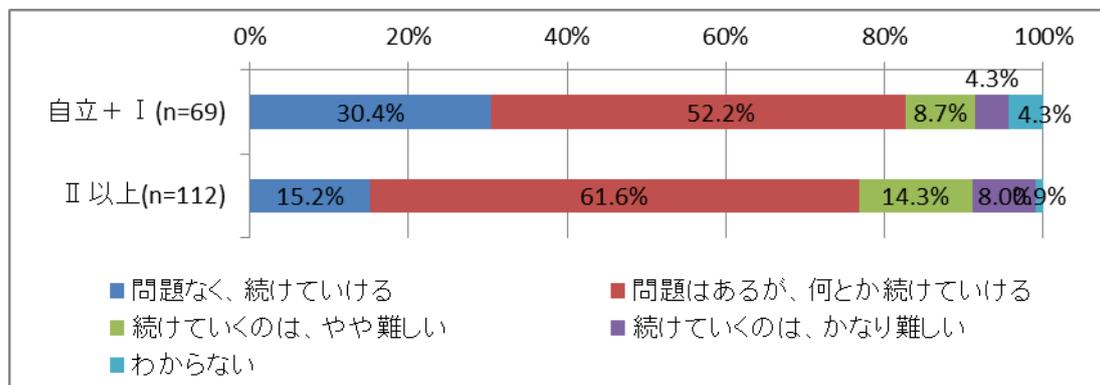
図表 4-8 就労状況別・就労継続見込み



図表 4-9 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

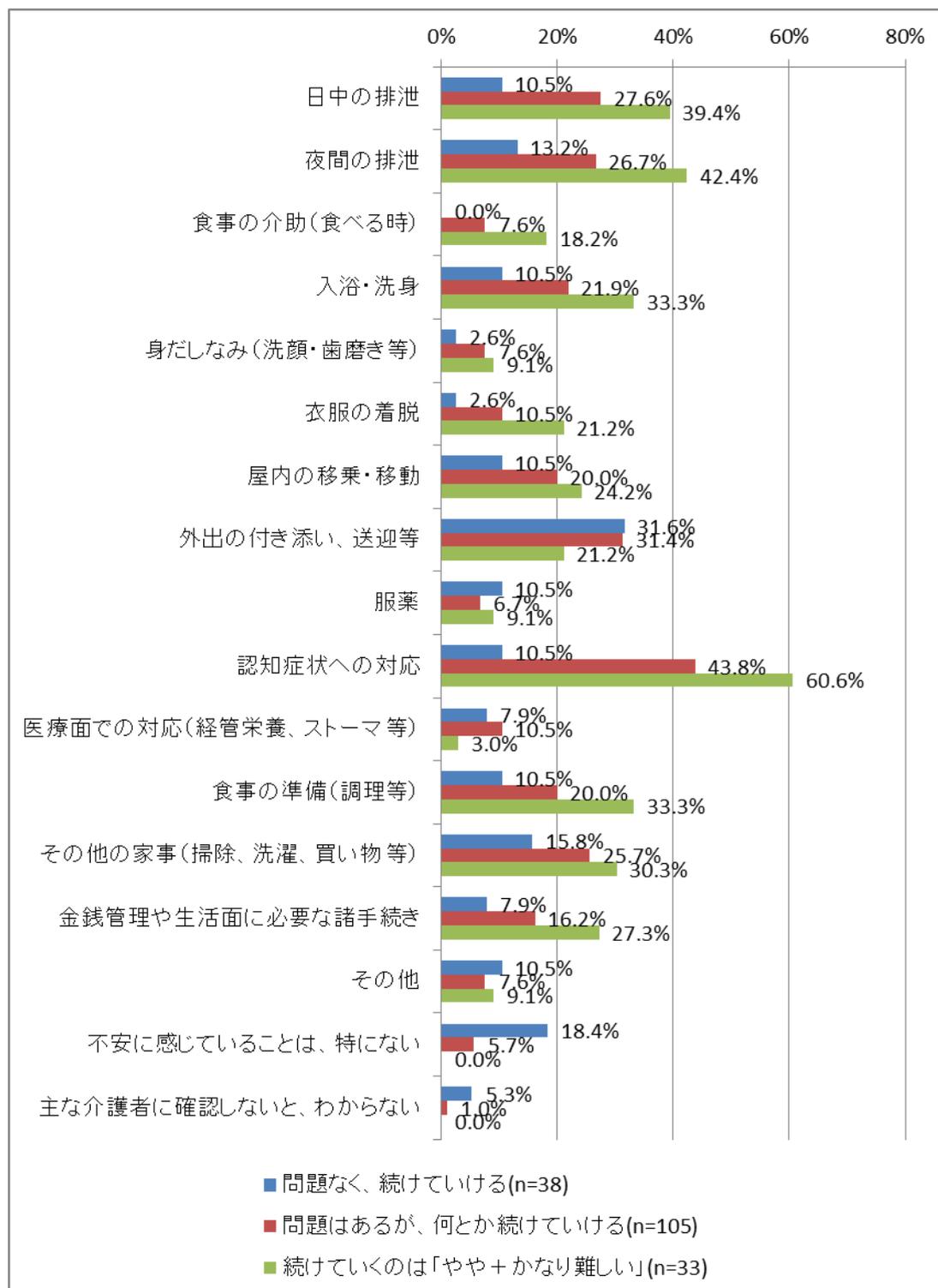


図表 4-10 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

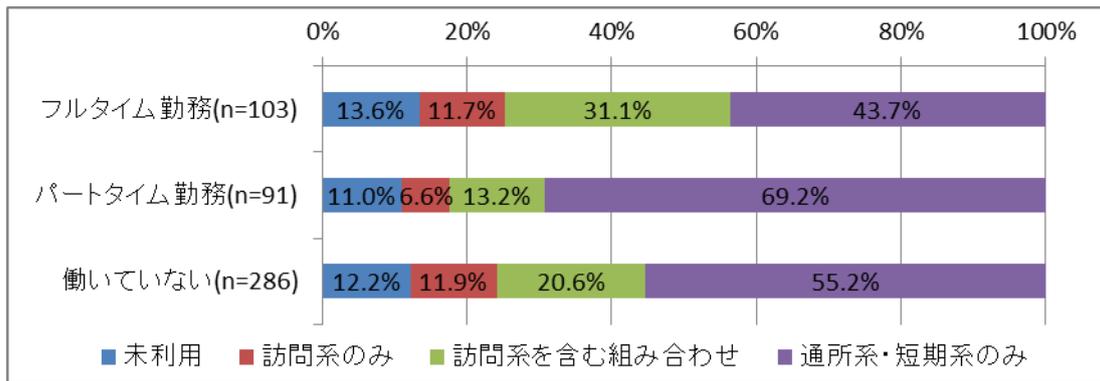


(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

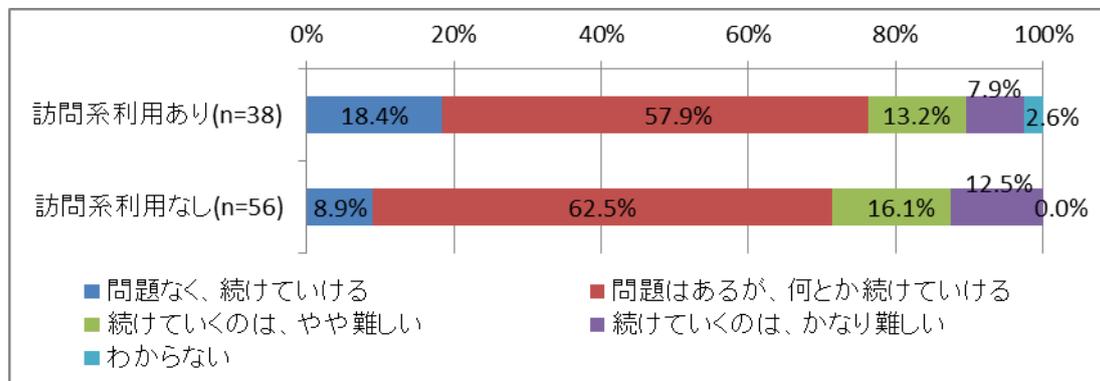
図表 4-11 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



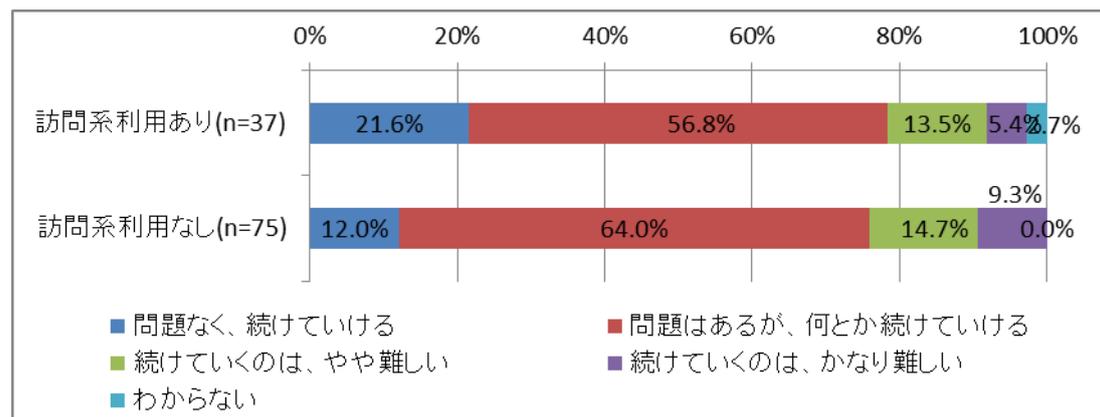
図表 4-12 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【資料】 在宅介護実態調査 調査票様式

＜米子市：在宅介護実態調査＞

整理番号 0001

米子市在宅介護実態調査 調査票

調査対象者氏名〔 _____ 〕 被保険者番号〔 _____ 〕

【現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか】（複数選択可）

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. その他

A票 調査対象者様ご本人について、お伺いします

※調査票の該当する番号に○をお願い致します。

問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

A票問7、問8へ

A票問3～問8へ

B票の記載は必要
ありません。
（同意書の記載は
お願いします。）

B票の記載も願
いします。

問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他

問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

⇒ 皆様、裏面へお進みください

問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可:わからない場合は16のみ選択)

〔身体介護〕

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、スーマ等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|---------|-----------|
| 15. その他 | 16. わからない |
|---------|-----------|

問6 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可:わからない場合は6のみ選択)

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く) | 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く) |
| 3. 主な介護者が転職した | 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した |
| 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない | 6. わからない |

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● ここから再び、全員に方にお伺いします。

問7 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可:特になし場合は11のみ選択)

- | | | |
|-----------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 特になし | |

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問8 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

- A票の問2で「2.」～「5.」を選択された場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いします。
- 「主な介護者」の方のB票へのご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人様(調査対象者様)にご回答・ご記入をお願いします(ご本人様のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です)。

B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|-----------------------|---|---------|
| 1. フルタイムで働いている | } | 問2～問5へ |
| 2. パートタイムで働いている | | |
| 3. 働いていない | } | 問5(裏面)へ |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | | |

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可:特にない、わからない場合は10又は11のみ選択)

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない | 2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実 |
| 3. 制度を利用しやすい職場づくり | 4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など) |
| 5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど) | 6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供 |
| 7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置 | 8. 介護をしている従業員への経済的な支援 |
| 9. その他 | 10. 特にない |
| 11. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 問題なく、続けていける | 2. 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

⇒ 皆様、裏面へお進みください

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、スーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
最後に下記の同意書への署名をお願いします。

米子市長 様

「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データの活用に係る同意書

私は、「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データ(認定調査、介護認定審査会のデータ)の活用について、以下の事項を確認のうえ、同意します。

記

■ 要介護認定データの利用目的について

本調査の分析にあたり使用する要介護認定データ(認定調査、介護認定審査会のデータ)は、当市における高齢者等支援施策の検討の際の基礎資料とすることを目的にしています。本人の許可なく、目的以外の使用は致しません。

令和元年 月 日

ご署名 _____
※調査対象者ご本人様の署名をお願いします。

代筆者 _____ (続柄) _____
※ご家族がご署名を代筆された場合は記入してください。

この調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、8月30日(金)までにご投函ください。